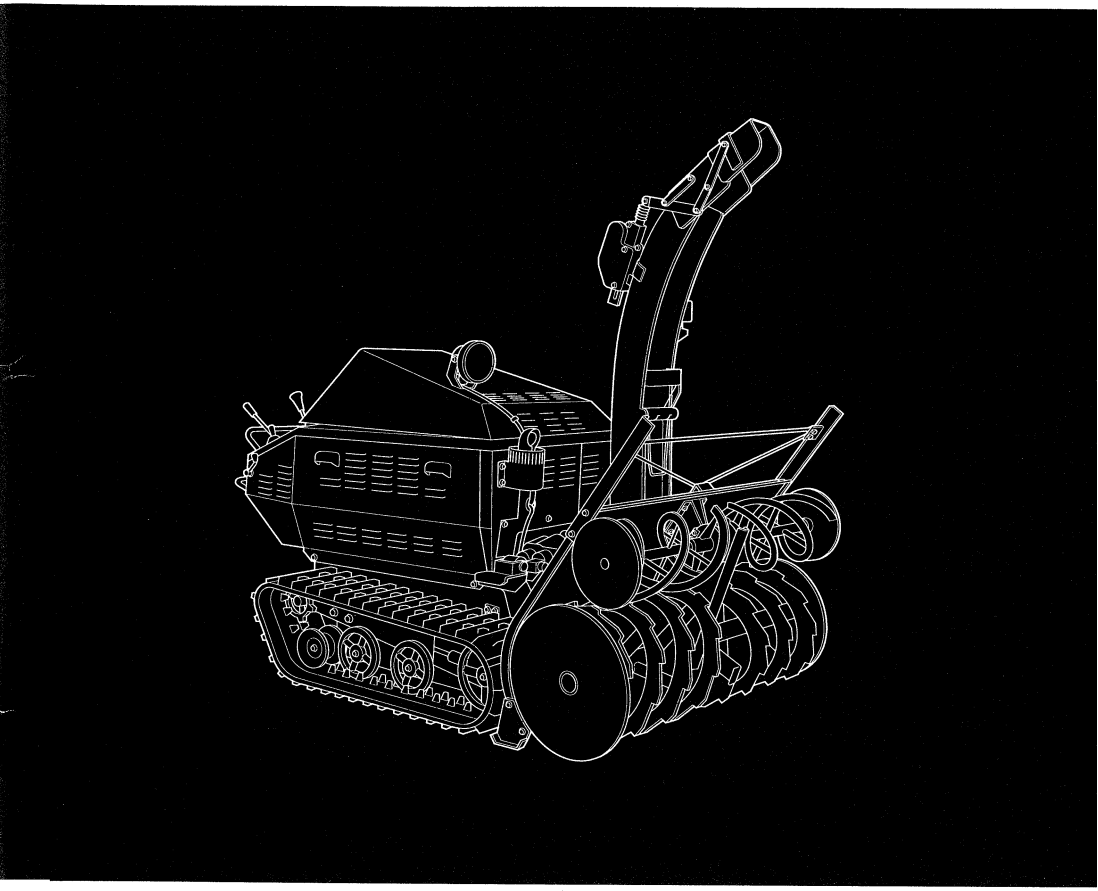
HONDA
汎用製品

除雪機

HS2212Z・HS2512Z

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

●一般公道では使用できません。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、除雪機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は
—除雪作業をするときは、必ず携帯してください。
—除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
—紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう …… 4
安全ラベル …… 8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 10
エンジン スイッチ …… 13
燃料コック レバー …… 13
エンジン回転調節レバー …… 14
走行クラッチ レバー …… 14
変速レバー …… 15
除雪クラッチ レバー …… 15
駐車ブレーキ レバー …… 16
オーガ調節レバー …… 16
サイド クラッチ レバー …… 17
投雪方向調節レバー …… 18
雪かき棒 …… 19
非常停止バー …… 19
シュート カバー …… 20
燃料計 …… 21
アワー メータ …… 21
水温警告灯 …… 22
充電警告灯 …… 22
油圧警告灯 …… 23
予熱表示灯 …… 23
前照灯スイッチ …… 24
非常停止スイッチ …… 24
ボンネットの開けかた、閉めかた …… 25
サイド カバーの取外し、取付け …… 26
エンジンを始動する前に点検しましょう …… 27
燃料の点検 …… 27
エンジン オイルの点検 …… 28
冷却水の点検 …… 30
無段変速機オイルの点検 …… 31
バッテリ液の点検 …… 32

オーガ、ブロア ロック ボルトの点検 ……33
その他の点検 ……33
エンジンのかけかた ……34
運転操作のしかた ……38
1．始　動 ……38
2．運転操作 ……38
3．旋回のしかた ……42
4．オーガの傾き調節 ……42
5．除雪のしかた ……43
除雪機の止めかた ……46
定期手入れを行いましょう ……50
日常点検 ……50
定期点検 ……51
やさしい点検・整備 ……52
携帯工具と付属部品 ……52
エンジン オイルの交換 ……53
エア クリーナ(空気清浄器)の清掃 ……55
無段変速機オイルの点検 ……56
オーガ ミッション オイルの点検 ……57
クローラ張り調整 ……58
除雪部の点検 ……59
燃料フィルタの点検 ……60
ヒューズについて ……61
長期間使用しないときの手入れ ……62
運搬するときは ……66
故障のときは ……68
主要諸元 ……69
配線図 ……73

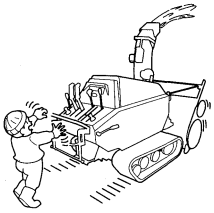
安全にお使いいただくために

警告

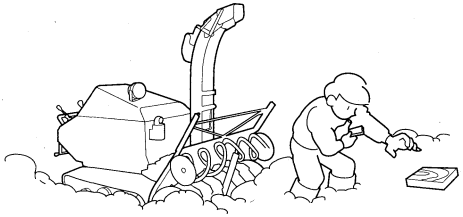
・あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

・過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
・この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
・間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
・エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(27〜33頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
・悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
・適切な指示なしでは誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。



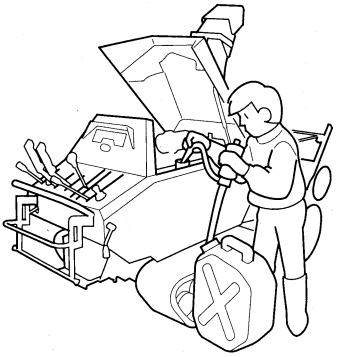
・カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
・本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
・除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪したあとは障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前に予め除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。



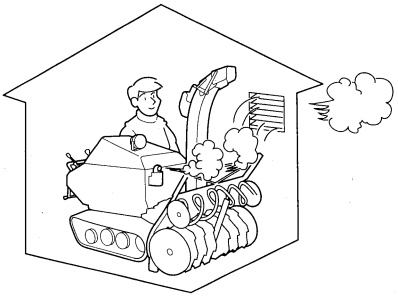
これだけはぜひ守りましょう

警告

・砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので除雪しないでください。
・定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は行わないでください。
・燃料は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
・燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
・燃料をこぼさないように注意し、所定のレベルまで補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



・屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

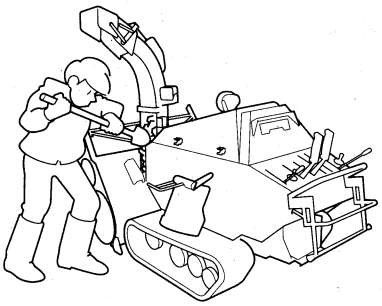


・屋根に積もった雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

警告

●作業中の注意

・除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
・除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを近づけないでください。
・投雪方向を人や建物などに向けて使用しないでください。投雪方向の調節はそのたび適切に行ってください。
・万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
・除雪部および投雪口に雪が詰まったときは、エンジンを停止し回転部が停止していることを確認してから備え付けの雪かき棒で取除いてください。大ケガをするおそれがあるので除雪部や投雪口に手を入れないでください。



・急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので必ず変速レバーを〝N〟の位置にしてから走行クラッチ レバーを〝入〟の位置にし、徐々に変速レバーを操作してください。
・雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、決して走らないでください。また方向転回時は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。特に後進時には、足元および後方に十分注意してください。
・共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
・除雪中障害物に当ったときはすぐにエンジンを止め、駐車ブレーキ レバーを〝駐車〟の位置にし、エンジン スイッチ キーを外して回転部が停止していることを確認してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

警告

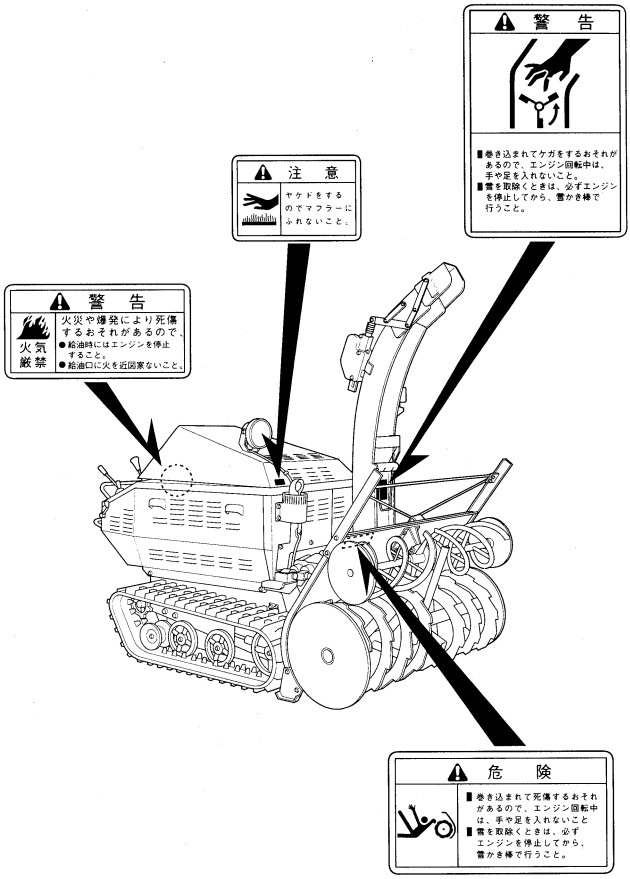
●作業が終わったら

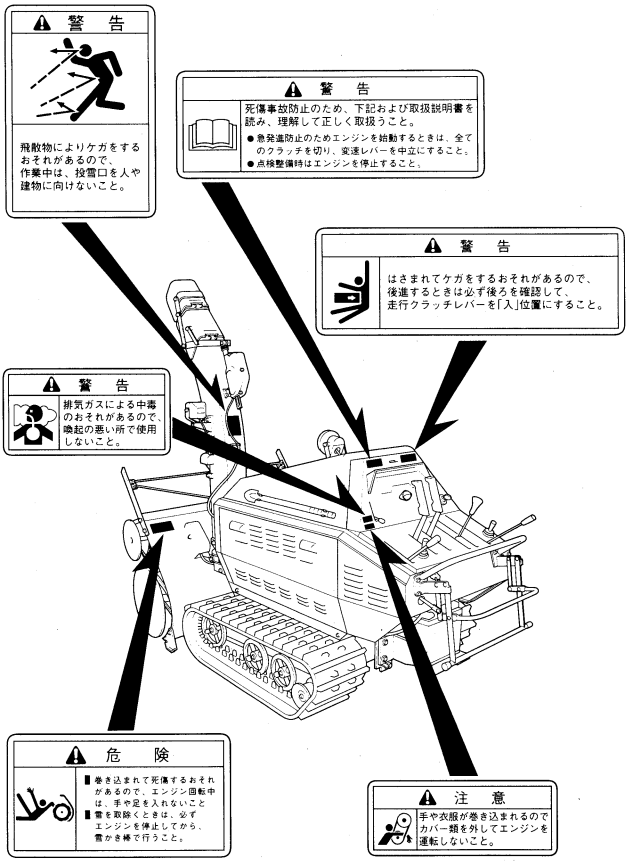
・本機から離れるときには、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてエンジン スイッチ キーを外してください。いたずらなどで本機が動き出し、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
・長期保管前には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は燃えやすく、火災のおそれがあるので所定の燃料タンクなどに入れ保管してください。
・各部点検で本機に触れるときは、エンジンを停止し、各部が冷えるまで十分に時間をおいてください。
・作業時以外は、必ず除雪部を完全に路面まで下げておいてください。
・ボンネット内に、工具、燃えやすい物などを置き忘れないように注意してください。工具、取扱説明書などは、必ず所定の工具箱に収納してください。

●安全ラベル

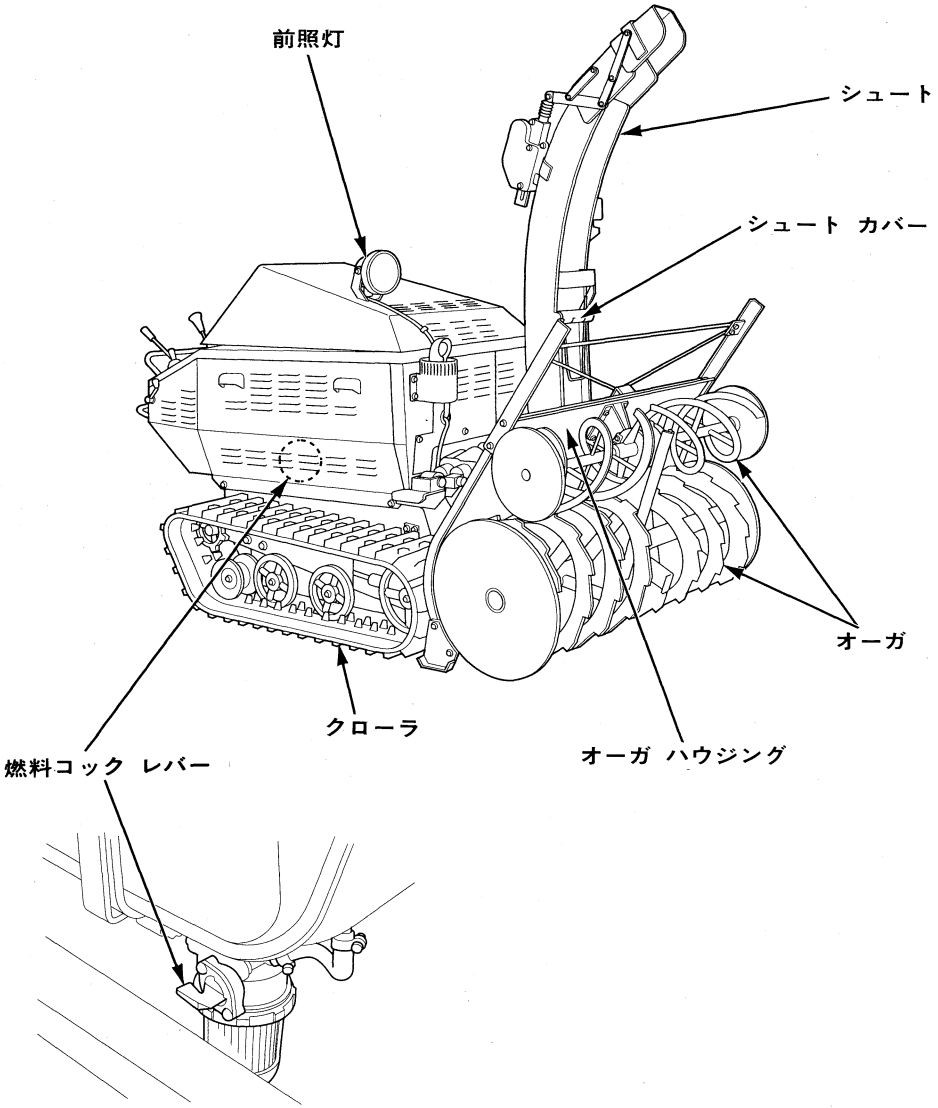
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルが、汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

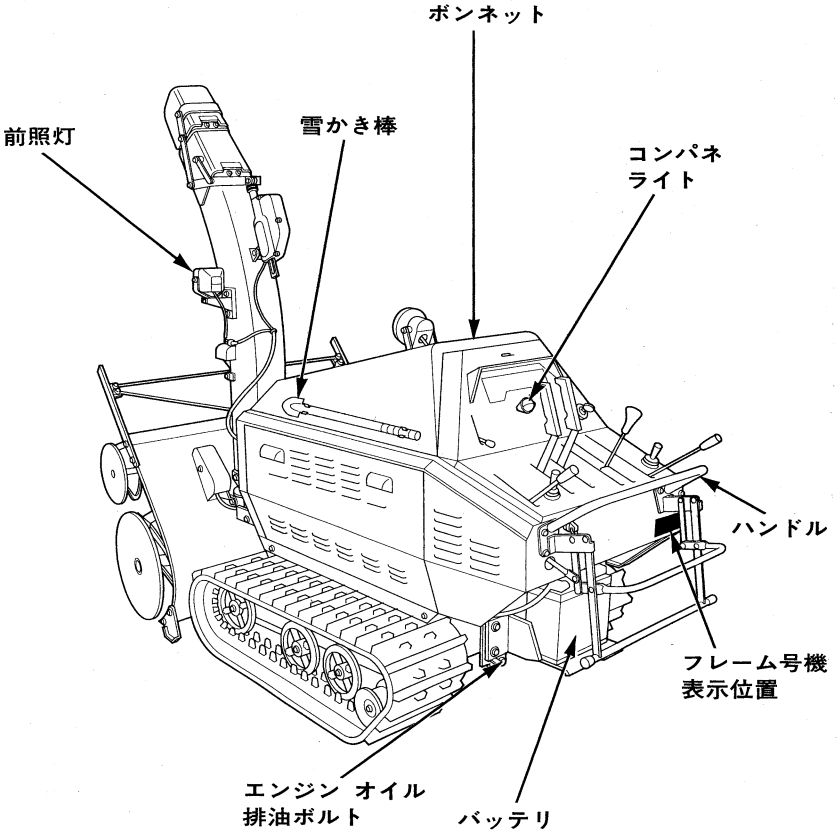


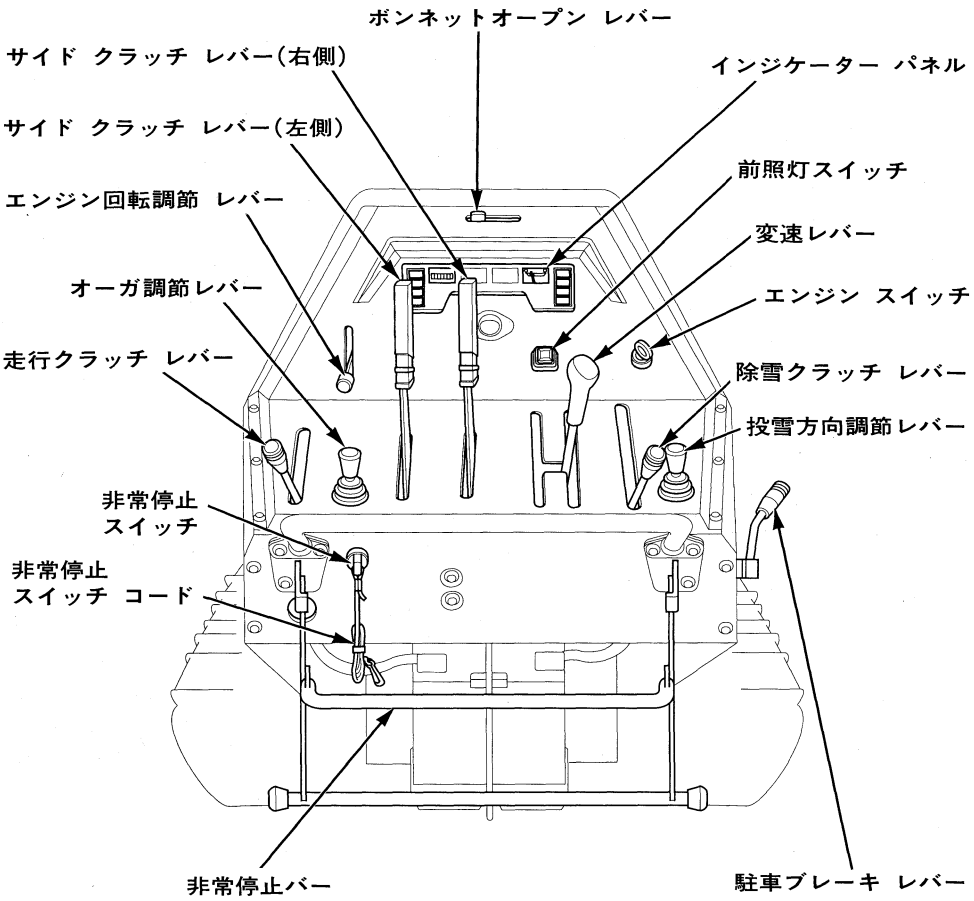

⚠ 警　告
飛散物によりケガをするおそれがあるので、
作業中は、投雪口を人や
建物に向けないこと。
⚠ 警　告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を
読み、理解して正しく取扱うこと。
● 急発進防止のためエンジンを始動するときは、全て
のクラッチを切り、変速レバーを中立にすること。
● 点検整備時はエンジンを停止すること。
⚠ 警　告
はさまれてケガをするおそれがあるので、
後進するときは必ず後ろを確認して、
走行クラッチレバーを「入」位置にすること。
⚠ 警　告
排気ガスによる中毒
のおそれがあるので、
喚起の悪い所で使用
しないこと。
⚠ 危　険
■ 巻き込まれて死傷するおそれ
があるので、エンジン回転中
は、手や足を入れないこと
■ 雪を取除くときは、必ず
エンジンを停止してから、
雪かき棒で行うこと。
⚠ 注　意
手や衣服が巻き込まれるので
カバー類を外してエンジンを
運転しないこと。

各　部　の　名　称　と　取



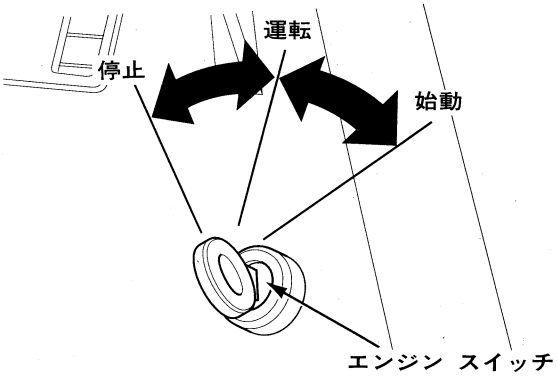
扱いをおぼえましょう




ボンネットオープン レバー
サイド クラッチ レバー(右側)
インジケーター パネル
サイド クラッチ レバー(左側)
前照灯スイッチ
エンジン回転調節 レバー
変速レバー
オーガ調節レバー
エンジン スイッチ
走行クラッチ レバー
除雪クラッチ レバー
投雪方向調節レバー
非常停止
スイッチ
非常停止
スイッチ コード
非常停止バー
駐車ブレーキ レバー

エンジン スイッチ

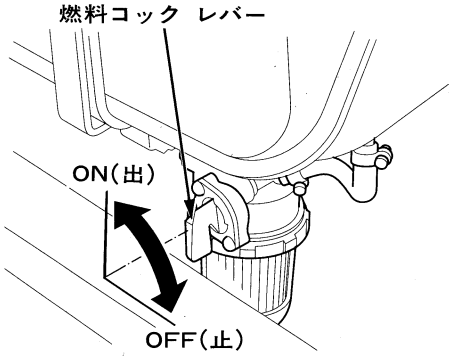
エンジンを始動、運転、停止させる時に操作します。



燃料コック レバー

右側サイド カバーを外してください。(26頁参照)

燃料タンクからの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に、〝OFF〞(止)、〝ON〞(出)の位置に合わせます。

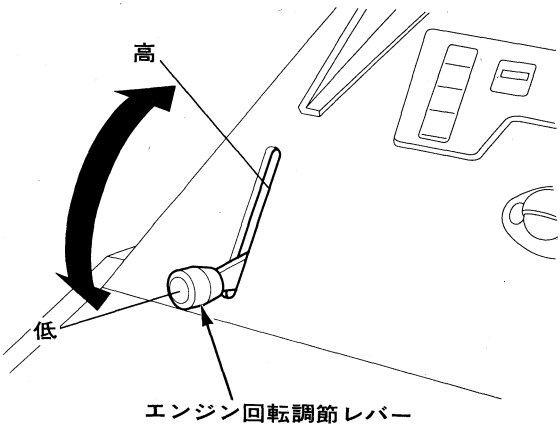


⚠警告

除雪機を運搬するときや、保管及び点検整備時本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐためにレバーを〝OFF〞(止)の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

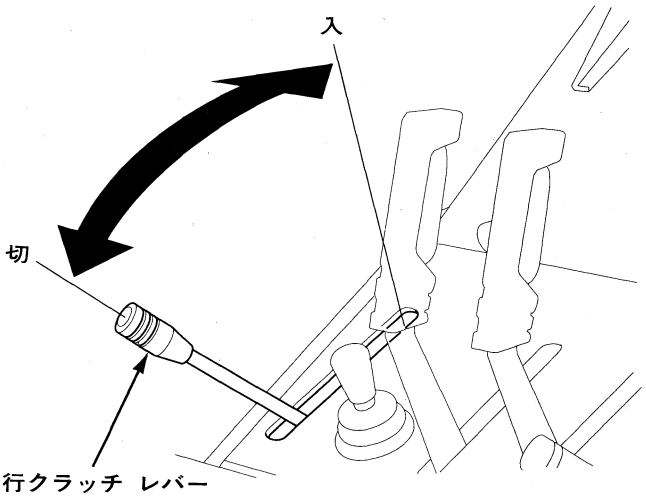
エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。通常は〝高〟の位置で使用してください。



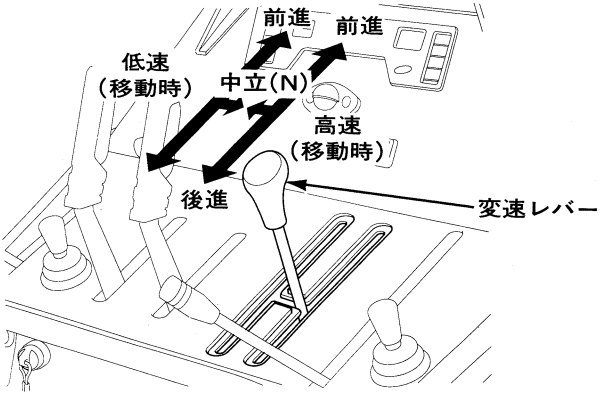
走行クラッチ レバー

走行クラッチ レバーを前方へ倒すと走行し、戻すと停止します。



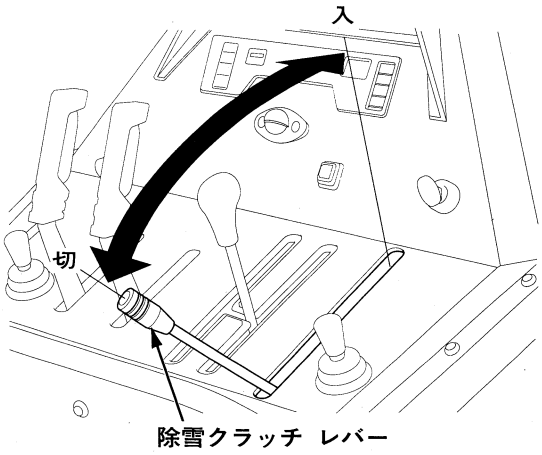
変速レバー

除雪機を前進、後進するときに操作します。高速(移動時)、低速(作業時)との組み合わせにより無段階の調節ができます。使用しないときは、〝中立〞(N)の位置にしてください。



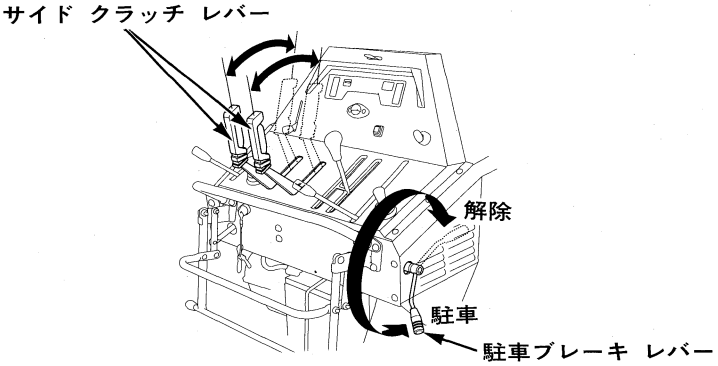
除雪クラッチ　レバー

除雪クラッチ レバーを〝入〞にすると除雪部が回転します。〝切〞にすると除雪部の回転が止まります。



駐車ブレーキ レバー

本機を駐車するときに操作します。駐車側に駐車ブレーキ レバーを引くとサイド クラッチ レバーがロックされブレーキが働きます。



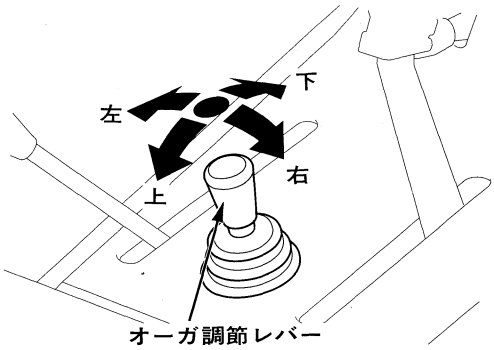
取扱いのポイント

走行中に駐車ブレーキ レバーを操作しないでください。変速機に悪影響をあたえます。

オーガ調節レバー

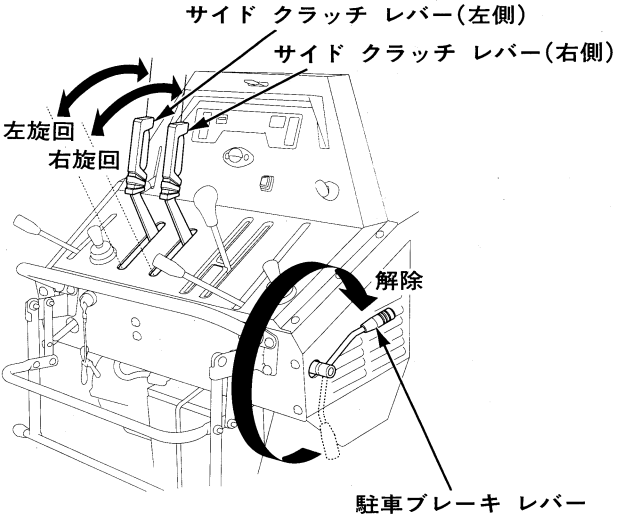
除雪部の高さと左右の傾きを調節するときに操作します。除雪部を上下、左右無段階に調節することができます。(42頁参照)

オーガ調節レバーは、エンジン回転中に操作してください。エンジン停止中は調節できません。



サイド クラッチ レバー

本機の方向を変えるときに操作します。
旋回しようとする側のサイド クラッチ レバーを手前に引くと、引いた方向に本機は旋回します。

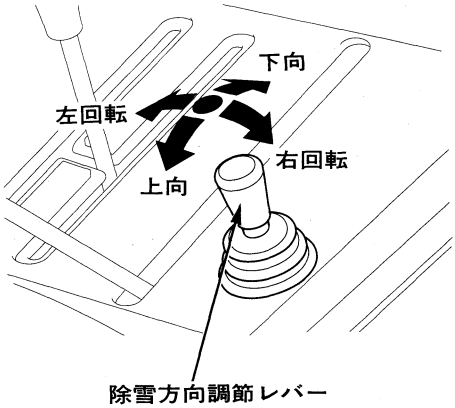


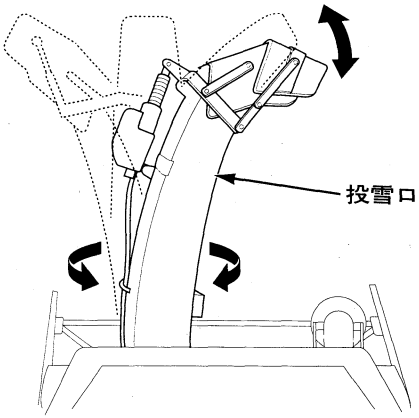
⚠警告

- **旋回するときは、十分スピードを落としてください。雪の上での作業は滑りやすく転倒するおそれがあります。**
- **サイド クラッチ レバーを操作するときは、周囲の安全を十分確認してください。また、旋回時は本機の位置が急激に変化します。ハンドルや操作パネルに体が触れないよう注意してください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。**

投雪方向調節レバー

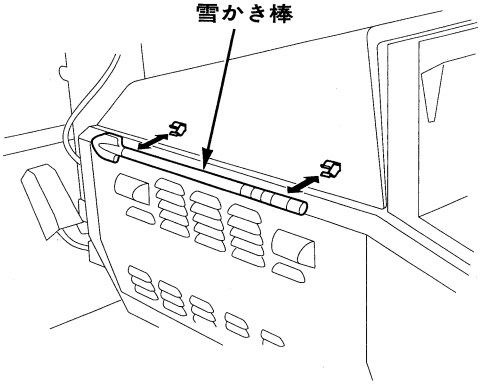
投雪距離と方向を変えるときに操作します。
エンジン スイッチを〝運転〟の位置にし、レバーを操作することによって投雪口を上下、左右無段階に調節することができます。
投雪方向調節レバーはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。





雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰ったときに使用します。
雪かき棒を使用した後は汚れをふき取り、きれいにしてから必ず元の取付け位置にセットしてください。

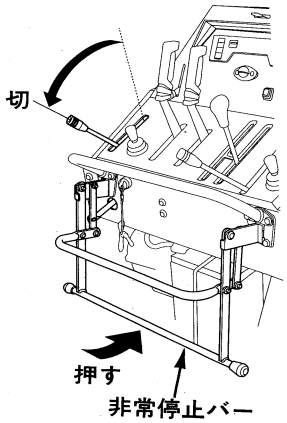


非常停止バー

非常時に走行を止めたい場合に使用します。非常停止バーを押しますと走行が停止し、エンジンが停止します。

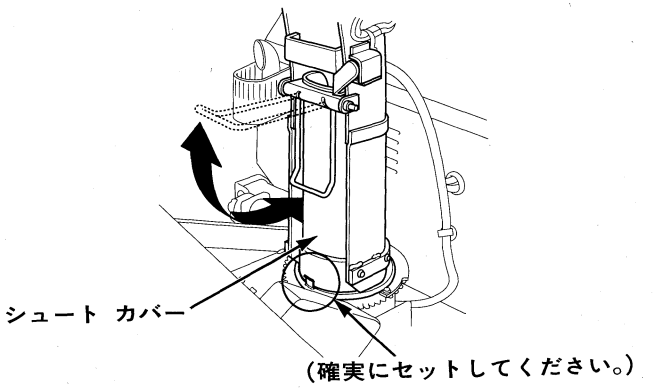
取扱いのポイント

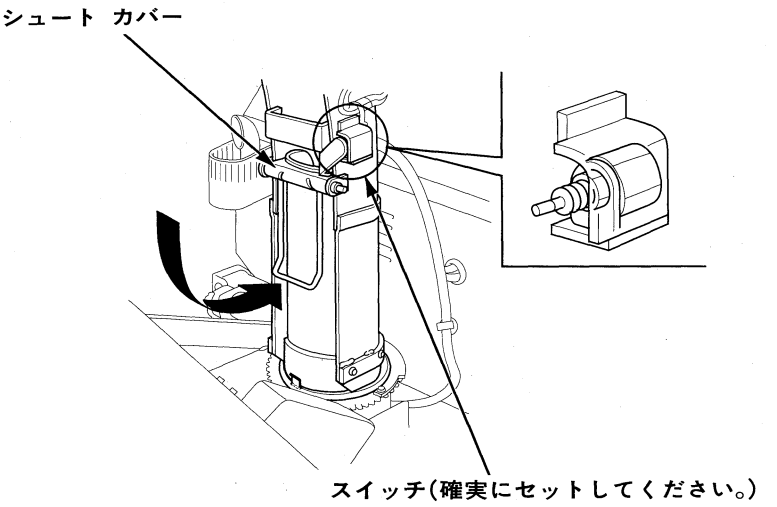
非常停止バーに乗ったり、ロープをかけないでください。故障する原因になります。



シュート カバー

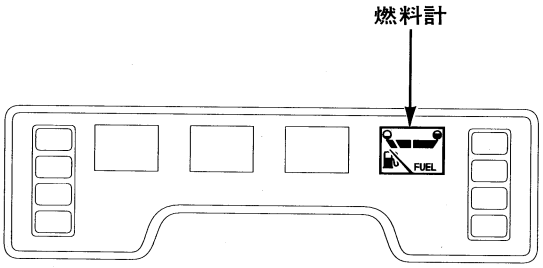
投雪口に雪が詰まったときは、シュート カバーを外して雪かき棒で詰った雪を除去してください。(19頁参照)
除去後、シュート カバーを確実にセットしてください。
セットされていないと、エンジンが始動しない機構になっています。





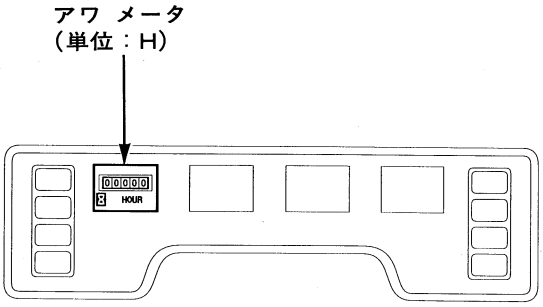
燃料計

燃料タンク内の燃料の量を表示します。
燃料計の針が赤いところに入ったら早目に燃料を補給してください。



アワー メータ

本機を使用した時間(単位：H)を表示します。定期点検時期の目安にしてください。



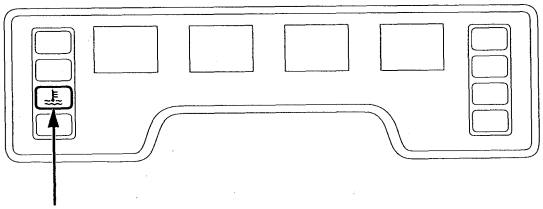
水温警告灯

エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点灯します。

取扱いのポイント

万一、運転中に警告灯が点灯した場合は、エンジンがオーバ ヒートしているおそれがあります。安全な場所に移動してエンジンを冷やしてください。冷却水の点検は30頁を参照してください。

・作業をふたたび開始するときは、ランプが消えていることを確認してからおこなってください。

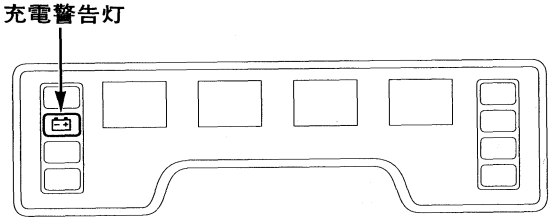


充電警告灯

充電系統に異常があるときに点灯します。

エンジン スイッチを**"運転"**にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。

・万一、運転中に点灯した場合はただちにお買いあげ販売店で点検を受けてください。



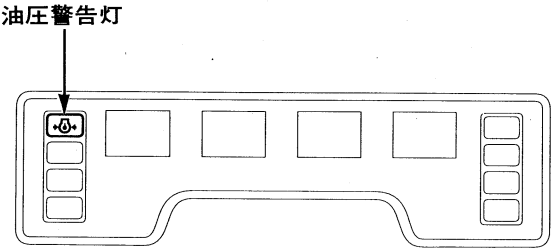
油圧警告灯

エンジンの潤滑系統に異常が発生したときに点灯します。エンジン スイッチを〝運転〟にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。

・万一、運転中に点灯した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、エンジン オイル量を点検してください。

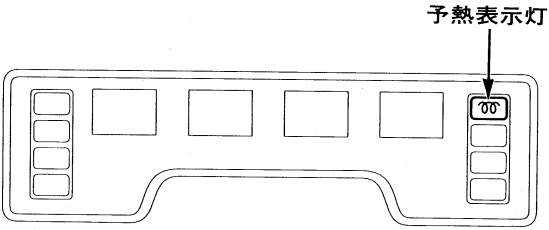
取扱いのポイント

エンジン オイル量が正常で、運転中に警告灯が点灯する場合は、除雪作業を中止してください。お買いあげ販売店で点検を受けてください。



予熱表示灯

点火系の予熱を表示します。エンジン始動時、エンジン スイッチを〝運転〟にすると点灯し、数秒後消灯します。この時点で予熱は完了です。

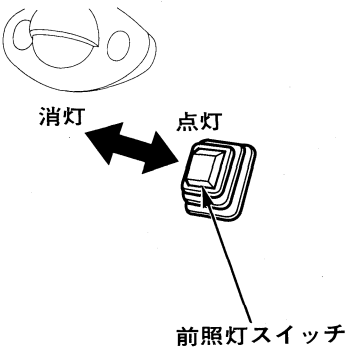


前照灯スイッチ

前照灯を点灯、消灯するときに操作します。
前照灯スイッチを一度押すとコンパネ ライトと前照灯が点灯し、もう一度押すと、消灯します。

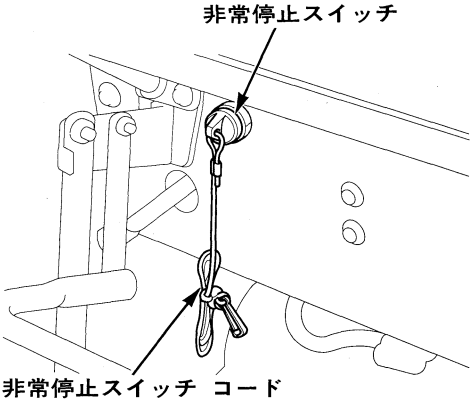
取扱いのポイント

前照灯は、エンジン運転中に使用してください。エンジン停止中に使用するとバッテリが消耗します。



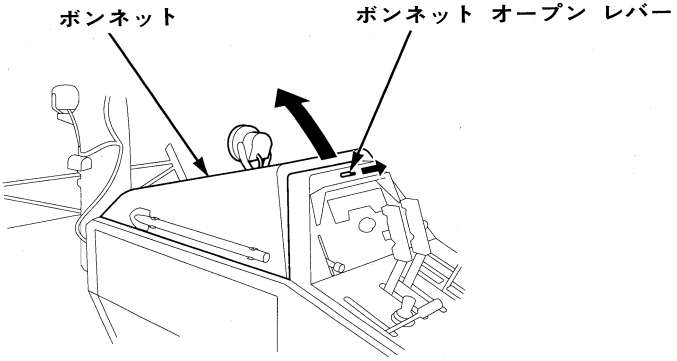
非常停止スイッチ

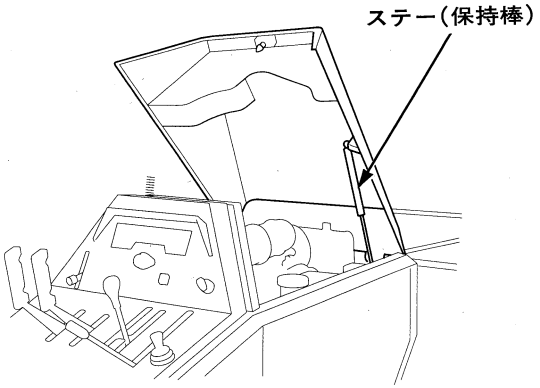
作業をおこなうときは、スイッチ先端の非常停止スイッチ コードを体に付けて使用してください。作業者が急に操作位置を離れたときに非常停止スイッチ コードがスイッチから外れ、エンジンが停止するようになっています。



ボンネットの開けかた、閉めかた

ボンネット オープン レバーを右の方に動かし、少し浮いたところで、静かに持ち上げます。
閉めるときは、ボンネットを静かに押し下げ、後ろ中央部を下側に押して確実に締めてください。

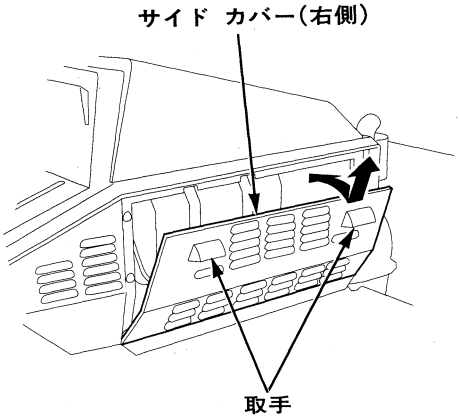


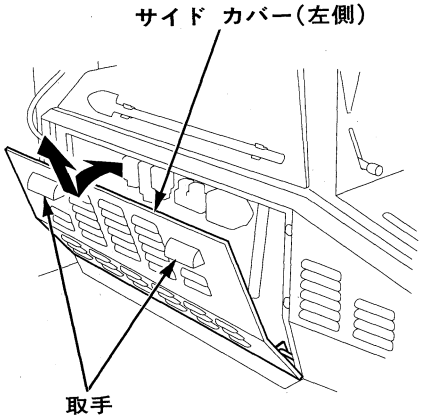


サイド カバーの取外し、取り付け

取外しは、取手を両手で持ち、斜め下の方に引きます。外れたところを持ち上げます。

取付けは、サイド カバーのフックをフレームに引っかけます。軽くフレームに当ったところで押しつけ確実に締付けてください。





エンジンを始動する前に点検しましょう。

⚠警告

- 点検は平坦な場所で本機を水平にし、オーガ ハウジングを接地させてエンジンを停止して行ってください。駐車ブレーキ レバーを〝駐車〟の位置にし、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチ キーを外して行ってください。

燃料の点検

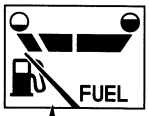
⚠警告

燃料は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。
燃料を補給するときは

- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**
- **燃料は給油口の口元まで入れず給油限界を超えないように補給してください。入れすぎると燃料が燃料給油キャップから漏れることがあります。**

点　検

エンジン スイッチを〝運転〟にしてから燃料計を確認してください。燃料計の針が赤の位置に近づいたら早めに燃料を補給してください。



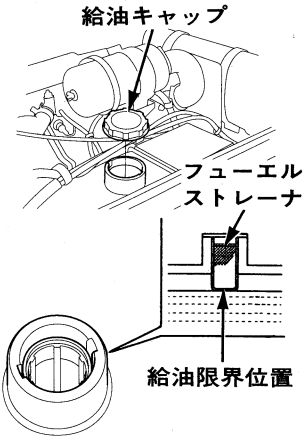
燃料計

補　給

使用燃料：ディーゼル軽油

タンク容量：25ℓ

- ボンネットを開け、給油キャップを外し給油口の給油限界位置を超えないように補給します。
- 補給後、給油キャップを確実に締付け、ボンネットを閉めてください。



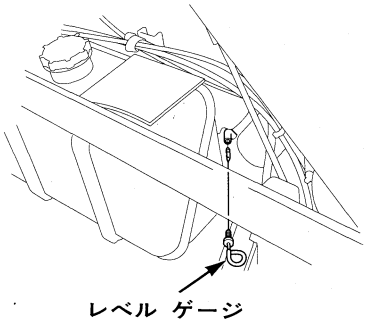
取扱いのポイント

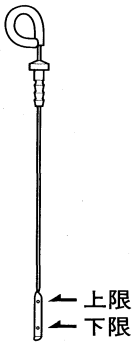
- **補給燃料は、使用地域に合ったディーゼル軽油(冬期用)を使用してください。ガソリンや揮発油、灯油などの燃料は使用しないでください。**
- **除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入るとエンジン不調の原因になります。**

エンジン オイルの点検

点　検

エンジン オイルの点検はエンジンが冷えているときに行ってください。
右側サイド カバーを取外します。(26頁参照)
点検する前にレベル ゲージ付近のほこりを取除いてください。
レベル ゲージを外し、一度きれいにふき取り再度元の位置まで差し込んでから外し上限までオイルがあるか点検します。少ない場合は、オイルを補給してください。





取扱いのポイント

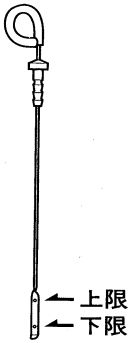
オイル ゲージは確実に差し込んでください。差し込みがゆるいとオイルが漏れることがあります。

補　給

ボンネットを開けてください。(25頁参照)

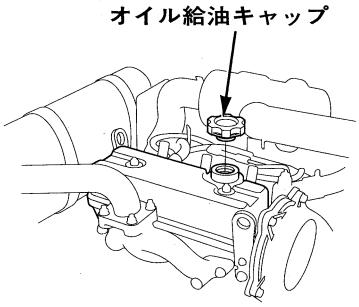
補給する前にオイル給油キャップ付近のほこりを取除いてください。

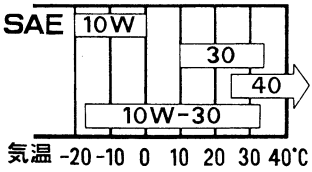
オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。



推奨オイル：Honda純正ウルトラ ディーゼル オイル、またはAPI分類CC、CD級相当のSAE10W-30のディーゼル エンジン オイルをご使用ください。

－20℃以下の極寒時は、API分類CC、CD級相当のSAE5W-30のディーゼル エンジン オイルをご使用ください。





汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は53頁参照)

補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。

ボンネットを閉め、右側サイド カバーを取付けてください。(25、26頁参照)

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

冷却水の点検

ラジエータには冷却水が少くならないように冷却水補助タンクが付いています。エンジン運転中、停止している状態では、冷却水の圧力(容積)が変化して、冷却水はラジエータと冷却水補助タンクをゆききする機構になっています。またラジエータ キャップにはスプリングの弁が付いていて、ラジエータの圧力がある一定以上の圧力にならないと弁が開かないようになっています。

⚠警告

冷却水の点検、補給は、冷却水の温度が十分さがってから行ってください。ラジエータ本体のキャップを外すときは、布きれなどでキャップを包みゆっくり外してください。冷却水の温度が高いときに、キャップを外すと蒸気や熱湯がふき出しヤケドをするおそれがあります。

点　検

・ボンネットを開け、冷却水補助タンク内の冷却水が〝MAX〟(上限)と〝MIN〟(下限)の間にあるか点検します。

・ラジエータ、ラジエータ ホースなどからの液漏れがないか、ラジエータ キャップが確実に締っているか点検してください。

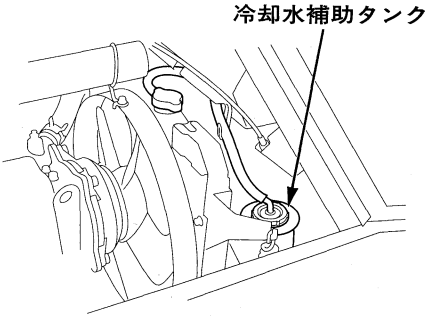
補　給

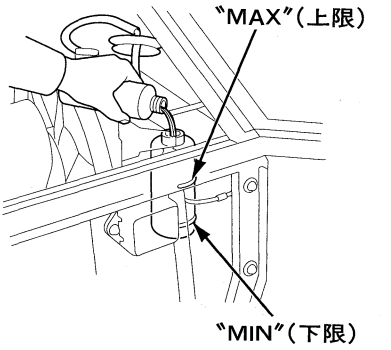
・冷却水補助タンクのキャップをはずし、〝MAX〟(上限)まで補給します。指定液の濃度を50%にしてご使用ください。

・指定ラジエータ液：Honda純正ウルトラ ラジエータ液

取扱いのポイント

・ラジエータ原液を規定濃度に薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。
・指定以外のラジエータ液や上水道(軟水)以外の水を使用すると、錆・凍結・オーバ ヒートなどの原因となります。





●エンジンがオーバ ヒートしたときは(水温警告灯が点灯したときは)

本機を安全な場所に止め、エンジンを低回転で運転したままボンネットを開けて冷やしてください。

⚠注意

エンジン各部は高温になっています。また回転部などに巻き込まれないように十分注意してください。

水温警告灯が消灯したらエンジンを停止します。約5分間程度で水温警告灯が消灯しない場合は、エンジンを停止してください。

十分にエンジン各部が冷えてから冷却水の点検を行ってください。

・オーバ ヒートはエンジンの故障の原因になります。オーバ ヒートしたあとは必ずお買いあげ販売店で点検を受けてください。

無段変速機オイルの点検

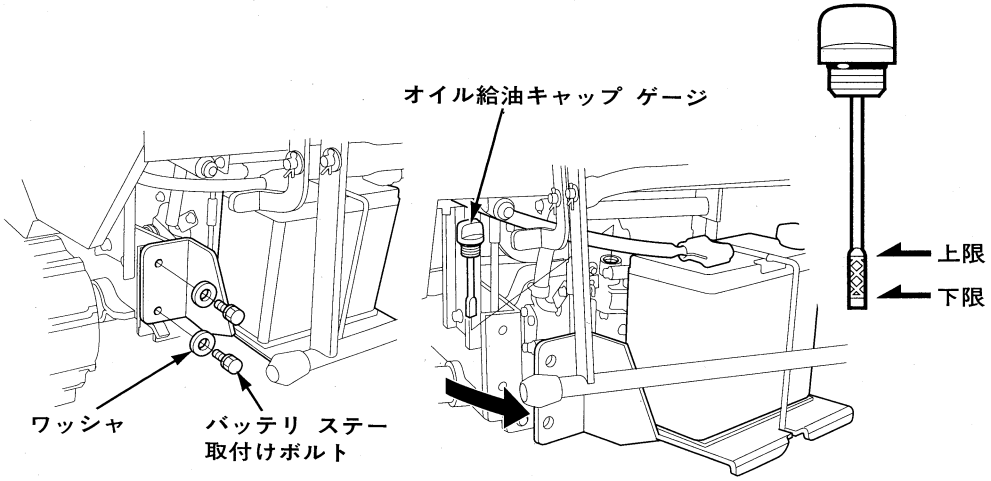
バッテリ ステー取付けボルトを外します。

オイル給油キャップ ゲージを外し、ゲージ上限までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。

補 給

油面が低いときは、オイル給油キャップ ゲージを外して新しいオイルをオイル給油キャップ ゲージの〝上限〟まで補給してください。

推奨オイル：TF300またはデキシロン2(GM社製)



バッテリ液の点検

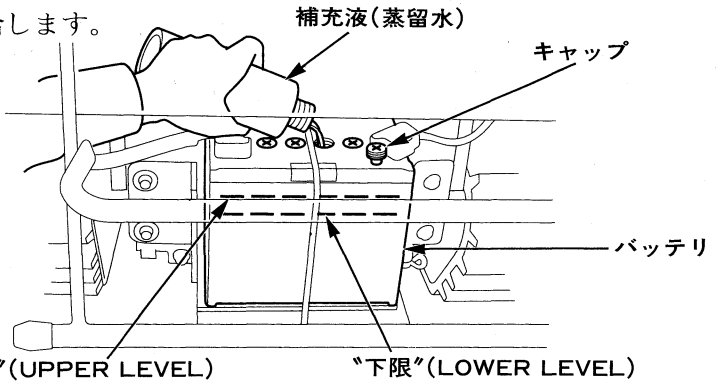
点　検

バッテリの液面が6槽とも**上限**(UPPER　LEVEL)と**下限**(LOWER LEVEL)の間にあるか点検してください。

同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。

補　給

少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液(蒸留水)を**上限**(UPPER LEVEL)まで補給します。



⚠警告

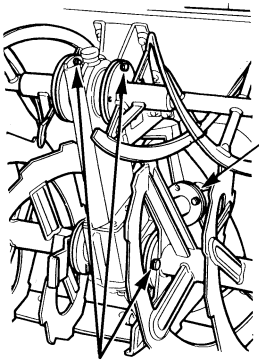
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

- 長時間使用しない場合には、バッテリの⊖端子を外しておいてください。長期間保管中は、6か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

オーガ、ブロア ロック ボルトの点検

オーガ、ブロア ロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。
ロック ボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わった際に、本機の損傷を防ぐ為に折れるしくみになっています。
もし折れている場合は59頁の手順に従って交換してください。



その他の点検

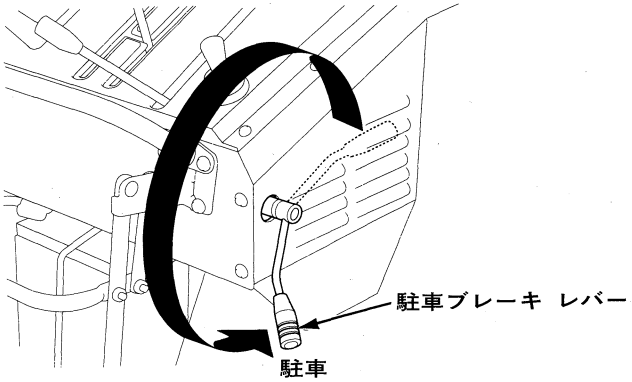
次の点検も忘れずに行ってください。
1.各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか
2.各部の作動状態
3.異常個所……前日悪かった所はないか

エンジンのかけかた

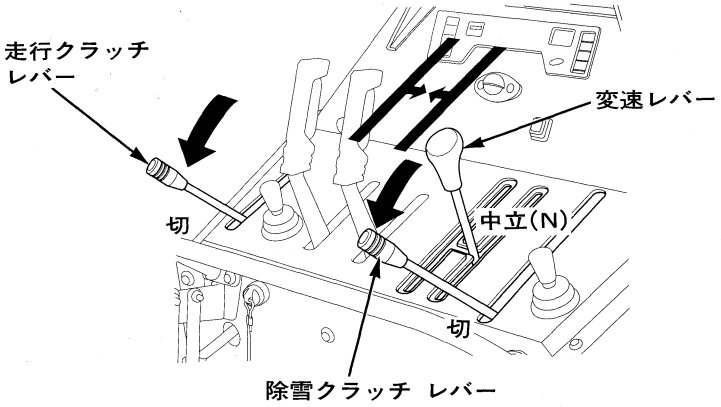
⚠警告

- **屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**
- **エンジンは平担な場所で駐車ブレーキ レバーを〝駐車〟の位置にし、始動してください。急な坂道で変速レバーを〝N〟(中立)の位置にすると本機が空走する場合があります。**

1.駐車ブレーキ レバーが、**〝駐車〟**の位置になっていることを確認してください。



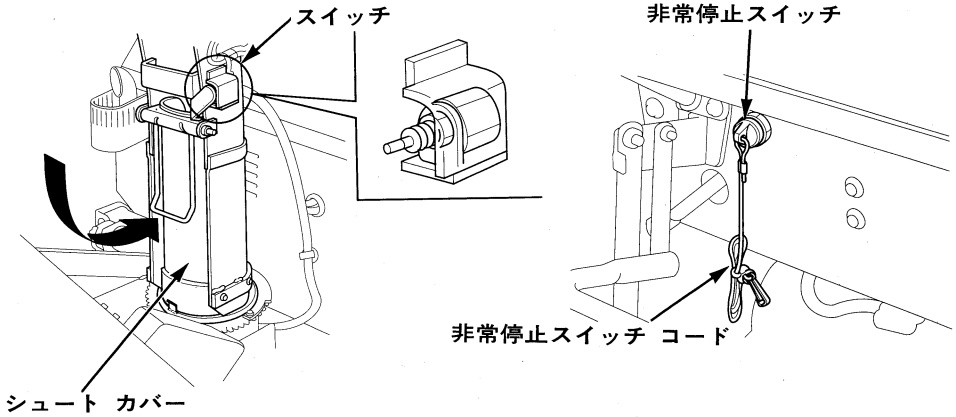
2.除雪クラッチ レバー、走行クラッチ レバーが**〝切〟**になっているか確認してください。どちらか一方でも**〝入〟**になっていたり、また完全に戻りきっていないとエンジンは始動しない機構になっています。変速レバーは**〝中立〟(N)**にしてください。



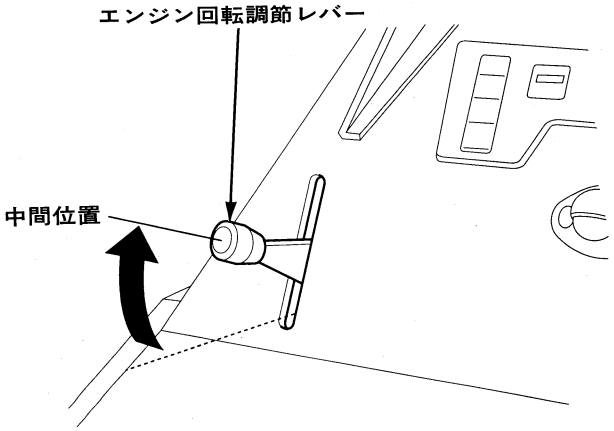
3.シュート カバーが確実に取付けられているか確認してください。シュート カバーが外れているとエンジンは、始動しない機構になっています。
非常停止スイッチが確実に取付けられていることを確認してください。非常停止スイッチが外れているとエンジンは、始動しない機構になっています。スイッチ先端の非常停止スイッチ コードを運転者の体の一部に付けてください。

⚠警告

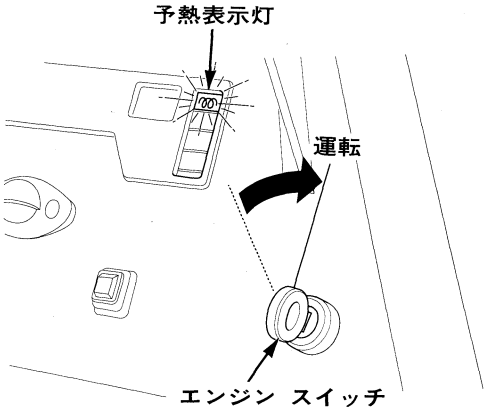
本機の運転中は、非常停止スイッチ コードを運転者の身体の一部に付けておいてください。非常時(ころんだときなど)にエンジンが停止せず、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



4.エンジン回転調節レバーを中間位置にセットしてください。



5.エンジン スイッチを〝**運転**〟にします。このとき予熱表示灯が点灯します。

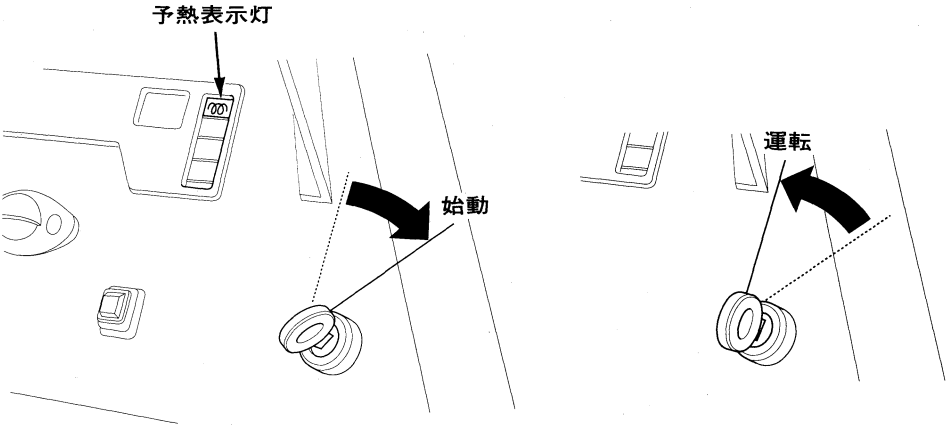


6.数秒後に、予熱表示灯が消灯します。消灯後、エンジン スイッチを〝**始動**〟の位置に回して、エンジンを始動してください。

エンジンが始動したら、エンジン スイッチから手を離してください。スイッチは、自動的に〝**運転**〟の位置に戻ります。

取扱いのポイント

スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動をしてください。



7.始動後、２～３分間暖機運転を行い、エンジン回転が安定するのを確認し、作業をはじめてください。

暖機運転をせずに負荷をかけることは、エンジンの寿命低下につながります。

暖機後の再スタートのときは、予熱する必要はありません。

運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず〝安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう〟の項目をよくお読みになり、除雪作業に取掛かってください。

⚠警告

本機の運転中は、非常停止スイッチ コードを運転者の身体の一部に付けておいてください。非常時(ころんだときなど)にエンジンが停止せず、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

- **除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。**
- **本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。**

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお知らせください。

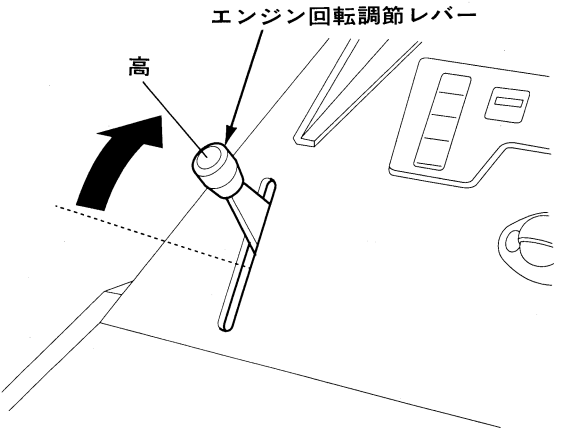
除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業するため、必要に応じて除雪部(オーガ)の高さ、傾きを調節してください。

1.始　動

始動については34頁～37頁を参照してください。

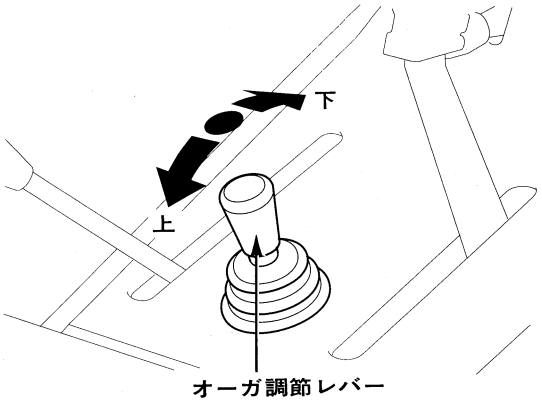
2.運転操作

—1.エンジン回転調節レバーを〝**高**〟にあわせます。



—2.オーガ調節レバーで除雪部(オーガ)の高さをあわせます。

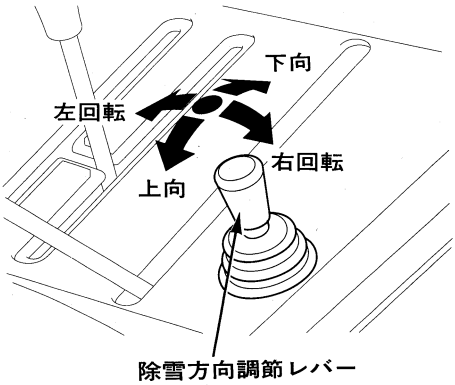
除雪する路面の状況に応じて、オーガを接地させるか、さらにくい込ませるかあるいは少し浮かせるかを決め、レバーで高さを調整します。

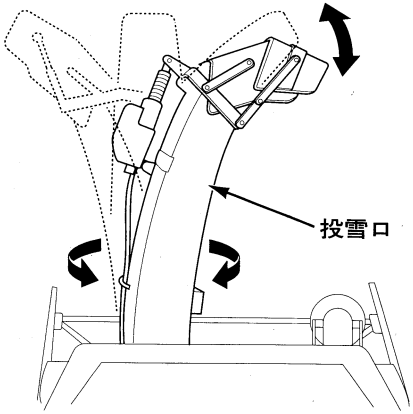


—3.投雪方向調節レバーで投雪距離と方向を調節します。

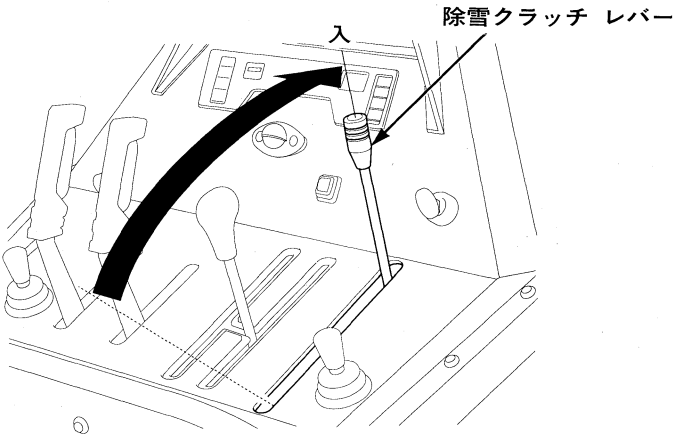
⚠注意

投雪距離や方向を変えるときには人や建物などに注意して行ってください。





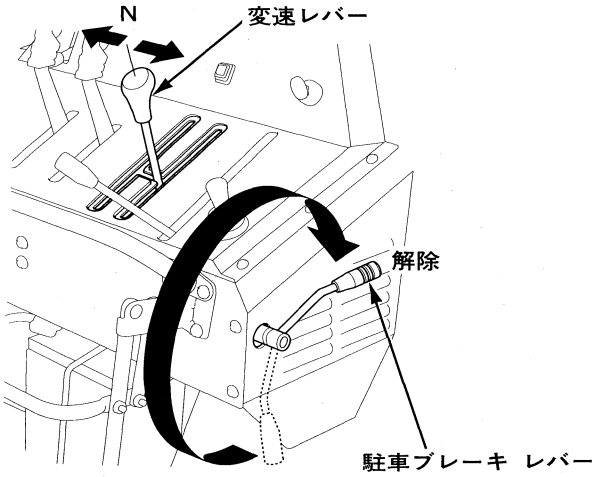
—4.除雪クラッチ レバーを〝入〟の位置にし、オーガを回転させます。



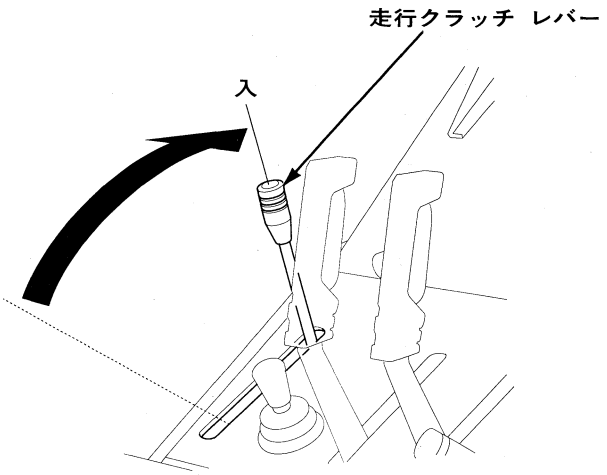
⚠注意

除雪クラッチ レバーおよび走行クラッチ レバーを操作(〝入〟)すると本機が作動します。周囲の安全を十分に確認してください。

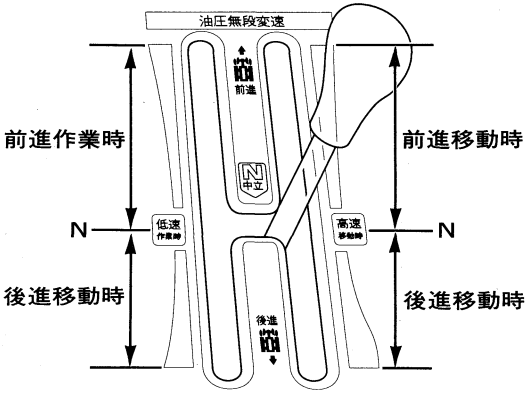
—5.変速レバーが〝N〟の位置にあることを確認したあと、駐車ブレーキ レバーを〝解除〟の位置にします。

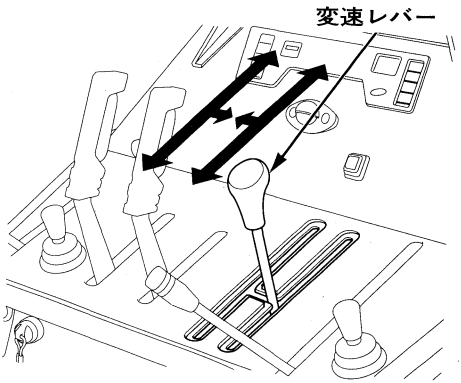


—6.走行クラッチ レバーを〝入〟の位置にします。



—7.雪質、積雪量に合わせて、変速レバーの位置を選び車速を設定します。





・移動のときは、除雪クラッチ レバーを〝切〟の位置にし、オーガの回転を停止させてください。

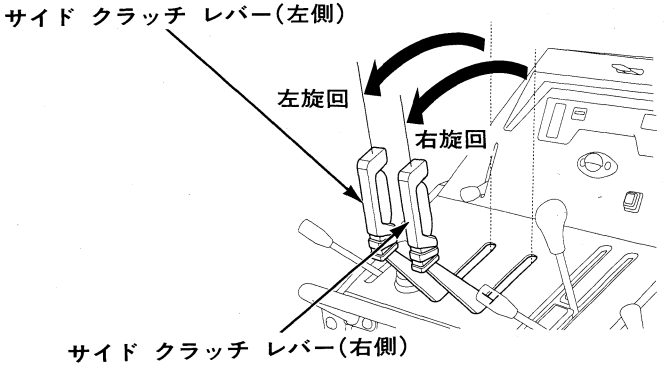
3.旋回のしかた

・旋回しようとする側のサイド クラッチ レバーを手前に引くと、引いた方向に旋回します。

・サイド クラッチ レバーを操作する場合は、レバーを確実に引いてください。

右側のレバーを引くと、除雪機は右側に曲がります。

左側のレバーを引くと、除雪機は左側に曲がります。

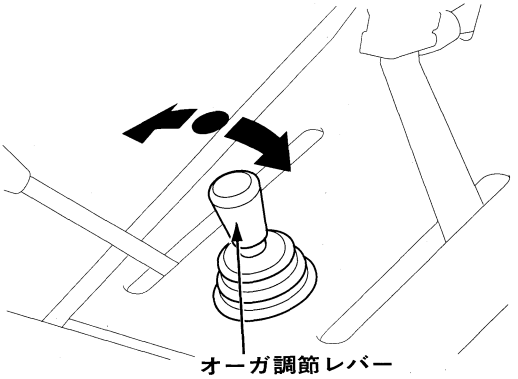


4.オーガの傾き調節

除雪作業中除雪機が傾いてきたときは、オーガ調節レバーでオーガの傾きを調節します。

除雪機が右側に傾いたとき……オーガ調節レバーを左側に倒します。

除雪機が左側に傾いたとき……オーガ調節レバーを右側に倒します。



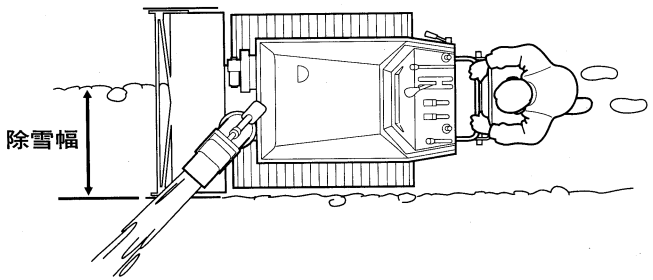
5.除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落さず行うことが重要です。
次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。
重い雪、深い雪や固い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合は、変速レバーを操作し、遅い速度で除雪してください。

・除雪中にやむをえず停止する場合は、変速レバーを〝N〟の位置にして停止してください。走行クラッチ レバー操作による停止は行わないでください。

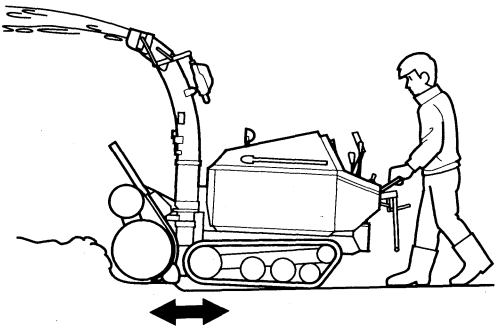
●除雪幅を狭くする方法

重い雪、深い雪や固い雪の場合は、できるだけ遅い速度で除雪してください。(エンジン回転が低下して投雪距離が２～３ｍのような状態は負荷のかけすぎです。)また、このような場合除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



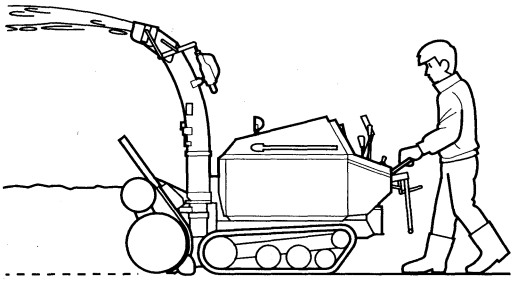
●**前後進除雪の方法**

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



●**段切除雪の方法**

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合は段階的に除雪してください。登りのときは、オーガ調節レバーを操作して除雪部を少し上げます。



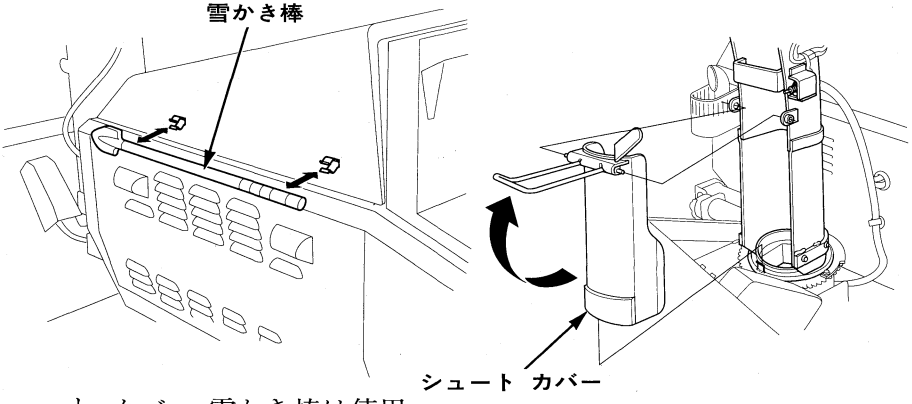
●投雪口に詰まった雪の除去

⚠警告

投雪口に詰まった雪を除去するときは、オーガ(除雪部)を完全に下降させてエンジンを停止し、駐車ブレーキ レバーを〝駐車〟の位置にしてください。各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
エンジンが回っているときは手を入れないでください。ケガをするおそれがあります。

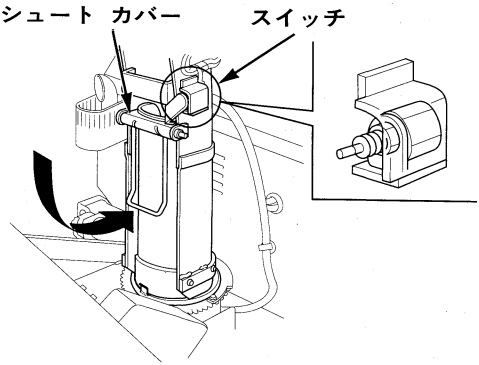
1.除雪作業中、投雪口に雪が詰ったときは、シュート カバーを外して雪かき棒で除去します。

・投雪方向調節レバーでシュートを左90°の位置に向け、本機の左側にて雪の除去作業を行ってください。



2.シュート カバー、雪かき棒は使用後、必ず元の位置にセットしてください。

・シュートには、安全スイッチが付いています。シュート カバーを確実にセットしないとエンジンが始動しません。



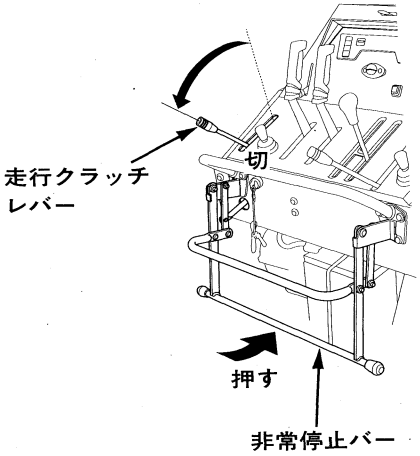
除 雪 機 の 止 め か た

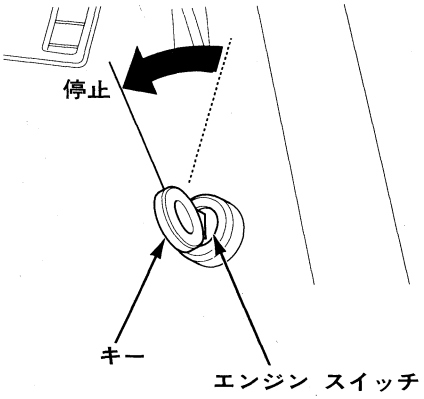
●緊急停止の場合

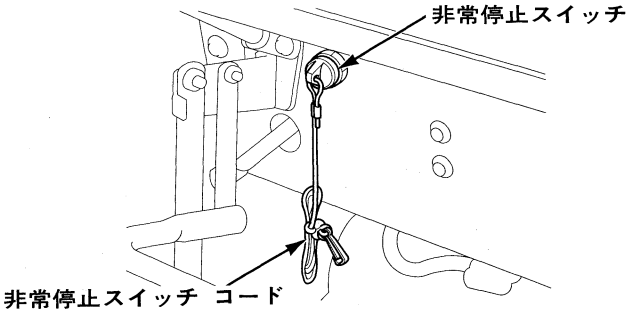
・非常停止バーを押すと、走行クラッチ レバーが〝切〟になり走行が停止し、エンジンが停止します。

・エンジン スイッチを〝停止〟にして、キーを抜きます。

・非常停止スイッチ コードを引き非常停止スイッチが引き抜かれると、走行が停止し、エンジンが停止します。





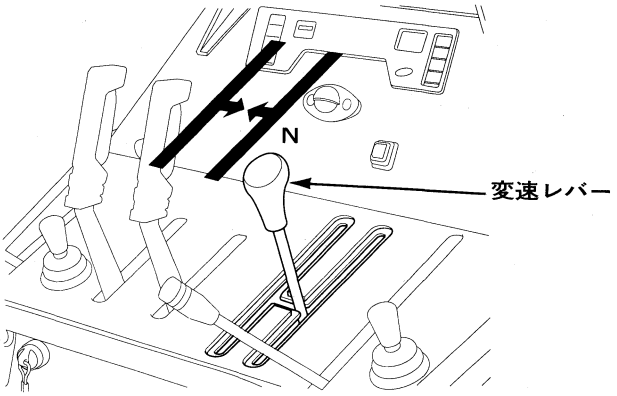


エンジン スイッチまたは非常停止スイッチで本機を停止させた場合は、再びエンジンを始動する前に、走行クラッチ レバー、除雪クラッチ レバーを〝切〟の位置にしてください。また、非常停止バーで本機を停止させた場合は除雪クラッチ レバーのみ〝切〟の位置にしてください。

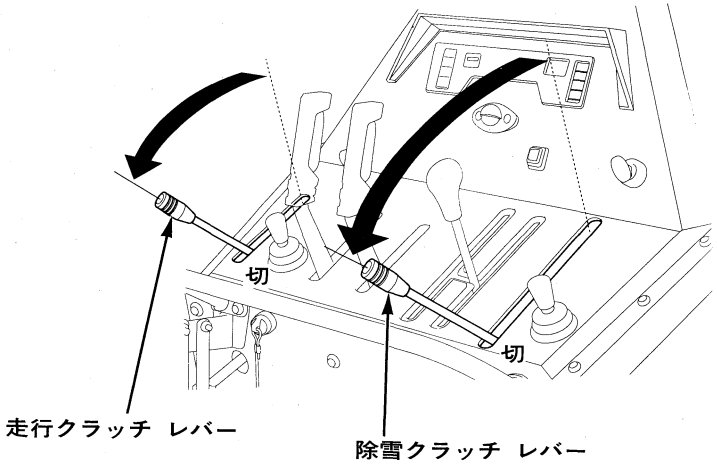
変速レバーを〝N〟の位置にして再びエンジンを始動してください。

●通常停止の場合

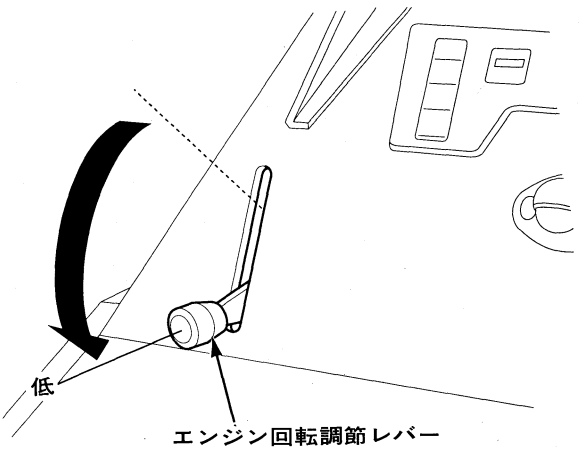
1.変速レバーを〝N〟の位置にします。走行が停止します。



2.除雪クラッチ レバー、走行クラッチ レバーを〝切〟の位置にします。



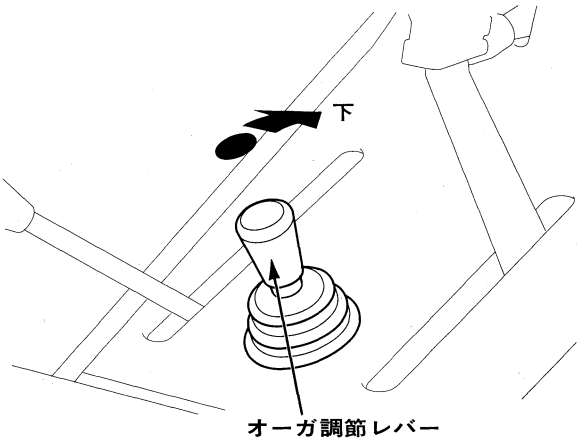
3.エンジン回転調節レバーを〝低〟の位置にします。



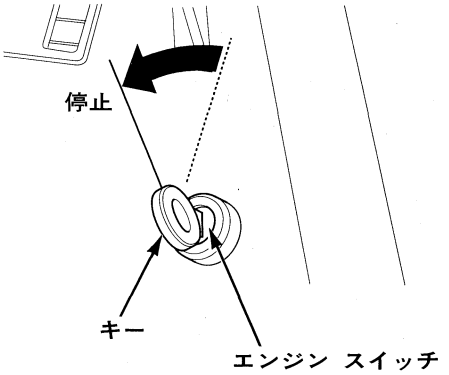
4.オーガ調節レバーを〝下〟にして、除雪部(オーガ)を完全に下降させます。

⚠注意

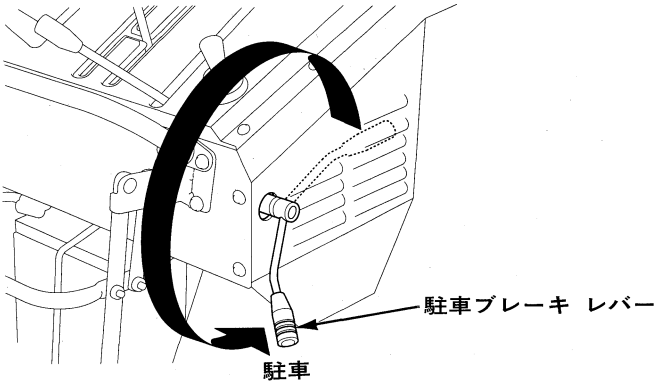
除雪部を上げたままエンジンを停止しないでください。オーガ調節レバーを操作すると除雪部が、不意に下がり思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



5.エンジン スイッチを〝**停止**〟の位置にして、キーを抜きます。



6.駐車ブレーキ レバーを〝**駐車**〟の位置にします。

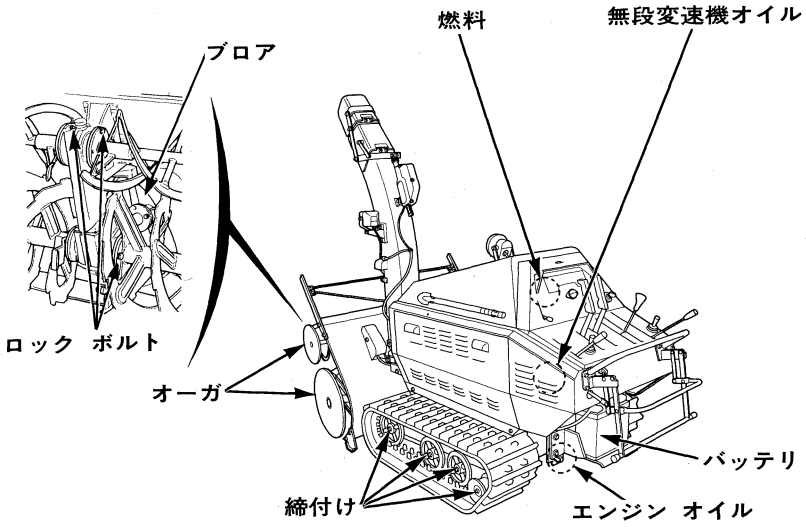


定期手入れを行いましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン オイル……{規定量入っているか。／漏れはないか。}
- 無段変速機オイル……{規定量入っているか。／漏れはないか。}
- 燃料……残量
- 各部の締付け……ゆるみ、ガタはないか。
- ラジエータ液……レベルまであるか。
- バッテリ液……レベルまであるか。
- 投雪方調節向レバー、オーガ調節レバー……作動の確認。
- オーガ、ロック ボルト、ブロア、オーガ ハウジングなどの損傷については、特に点検を行ってください。
- 異常個所はなかったか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目	点検時間	作業前点検	初回 20時間目	除雪時期 初めの点検	(毎年) 終りの点検
エンジン オイル	点検	○			
	交換		○	(100時間毎) ○	
無段変速機オイル	点検	○	○		
	交換	※2年毎			
バッテリ	液量の点検	○			
	比重の点検			○	
ラジエータ液	点検	○			
	交換	※2年毎			
オーガ ミッション オイル	点検			○	
	交換	※3年又は300時間毎交換			
クローラ	点検、調整			○	
燃料チューブ	点検			○	
	交換	※3年毎			
エア クリーナ	清掃			○	
	交換	4年又は500時間毎交換			
ファン ベルト、主変速ロッド シュータ ガイド ロッド	点検、調整			○※	
オーガ ベルト、走行1次ベルト、走行2次ベルト	点検			○※	
走行クラッチ ケーブル オーガ クラッチ ケーブル スロットル ケーブル、サイド クラッチ ケーブル	点検、調整			◎※	
格納時の各部防錆油	塗布				○
燃料フィルタ	水抜き				○※
	交換	※4年又は500時間毎交換			
燃料タンク	水抜き				○※
	清掃	※4年又は500時間毎			
オイル フィルタ	交換	※2年又は200時間毎交換			
無段変速機オイル タンク (フィルタ)	交換	※4年又は500時間毎交換			
燃料噴射ノズル	点検	※500時間毎			
各部締付け	増締め	※500時間毎			
吸排気弁すき間	点検、調整	※1000時間毎			
燃料室	点検、清掃	※1000時間毎			

◎印のついた項目は消耗部品であり使用条件により交換時期がかわります。損傷等がある場合には、早めに交換してください。

※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

やさしい点検・整備

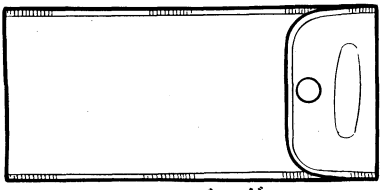
⚠警告

- 点検・整備は平坦な場所で本機を水平にして、エンジンを止めエンジン スイッチ キーを外し駐車ブレーキを〝駐車〟の位置にして行ってください。また走行クラッチ レバー、除雪クラッチ レバーが〝切〟になっていることを確認してください。
- 除雪部を完全に下降させて接地していることを確認して行ってください。

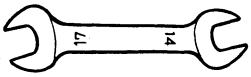
携帯工具と付属部品

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。
(　)は、数量を表示しています。

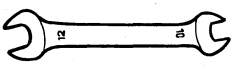
同梱工具



ツール バッグ



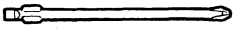
スパナ 14×17(2)



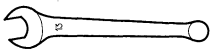
スパナ 10×12(2)



ドライバ ハンドル



(+)ドライバ



スパナ13

付属部品

上段オーガ用



六角ボルト 8×25mm(5)



スプリング ワッシャ(5)

六角ナット(5)

ブロア用



六角ボルト 6×25mm(10)

スプリング ワッシャ(10)

六角ナット(10)

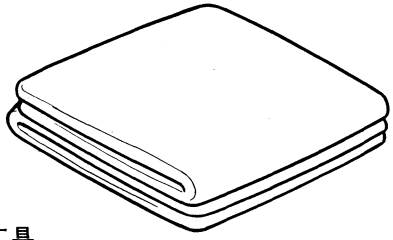
下段オーガ用



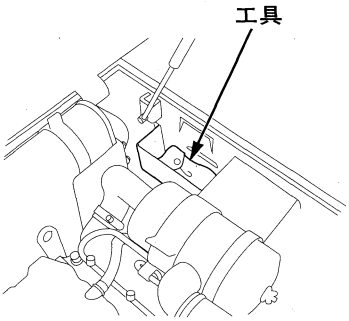
六角ボルト 10×30mm(10)

スプリング ワッシャ(10)

六角ナット(10)



ボディ カバー



エンジン オイルの交換

⚠警告

エンジン停止直後は、エンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

(初回：20時間使用時にも交換してください。)

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

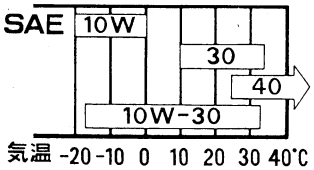
初回20時間目、以後：年一回除雪時期の初め、または100時間運転時

《推奨オイル》

Honda純正ウルトラ ディーゼル オイル、またはAPI分類CC、CD級相当のSAE10W-30のディーゼル エンジン オイルをご使用ください。

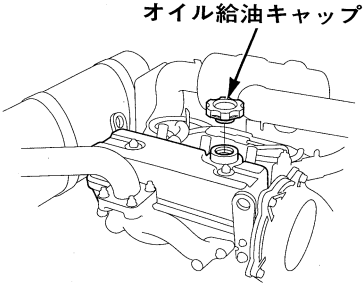
−20℃以下の極寒時は、API分類CC、CD級相当のSAE5W-30のディーゼル エンジン オイルをご使用ください。

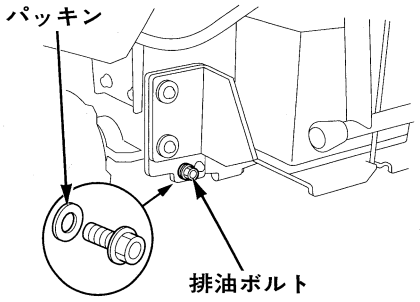
《規定量》 3.5ℓ



《交換のしかた》

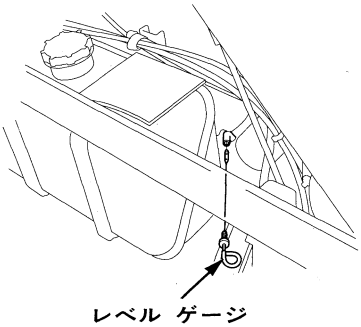
1. ボンネットを開き(25頁参照)、右側サイド カバーを取外します。(26頁参照)
2. オイル給油キャップ、排油ボルトを外して、オイルを抜いてください。

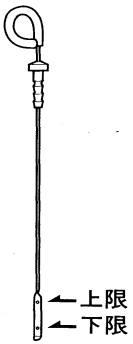




3.オイルが抜けたら排油ボルトを確実に締付けます。このときパッキンは新しい部品に交換してください。

4.新しいエンジン オイルをレベル ゲージの上限まで注入します。





5.注入後、オイル給油キャップを確実に締付けます。

取扱いのポイント

- **交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い、適正に処理してください。不明な場合は、エンジン オイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。**
- **オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換してください。**
- **オイル ゲージは確実に差し込んでください。またオイル給油キャップは確実に締付けてください。差し込み、締付けがゆるいとオイルがにじみでることがあります。**

6.ボンネットを閉めて、右側サイド カバーを取付けてください。

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃

空気清浄器が目詰りすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

《清掃時期》

年一回除雪時期の初め

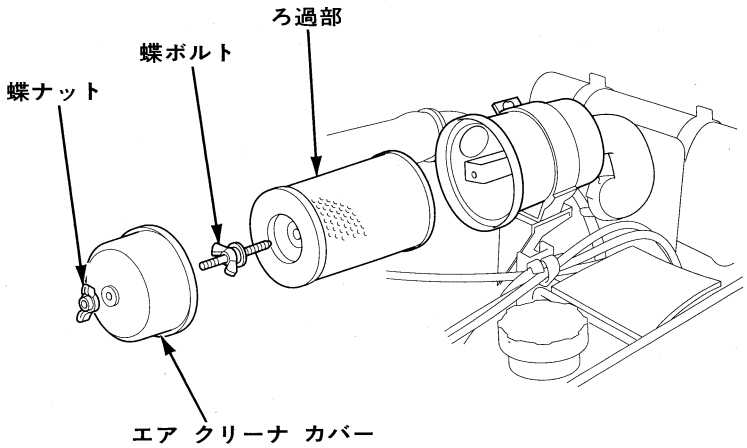
《清掃のしかた》

1.ボンネットを開けます。(25頁参照)蝶ナットを外し、エア クリーナ カバーを外します。

2.蝶ボルトを外し、ろ過部を取外します。

3.ろ過部は圧縮空気を吹きかけるか、軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。

4.清掃後、ろ過部を取付けて蝶ボルトを確実に締付けます。次にエア クリーナ カバーを取付け蝶ナットを確実に締付けてください。



取扱いのポイント

- **エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア クリーナ カバーやろ過部を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

無段変速機オイルの点検

《点検時期》

初回20時間目

点　検

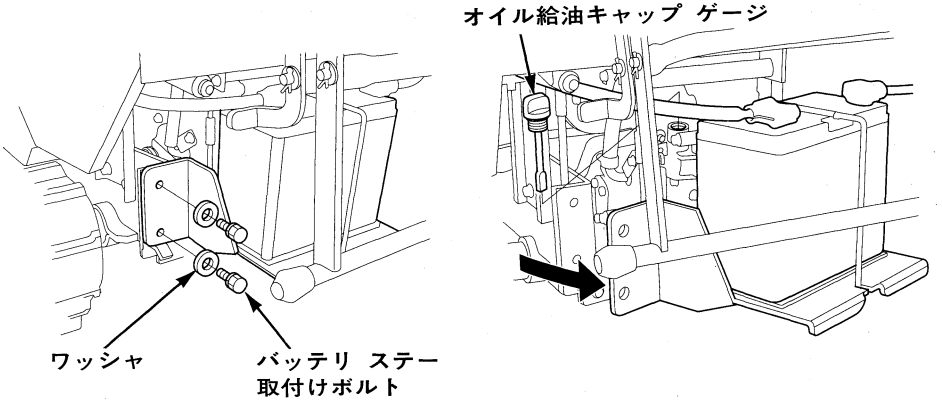
バッテリ ステー取付けボルトを外します。

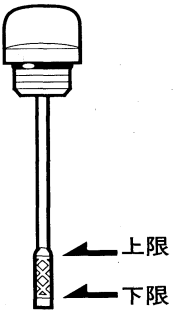
オイル給油キャップ ゲージを外し、ゲージ上限までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。

補　給

油面が低いときは、オイル給油キャップ ゲージを外して新しいオイルをオイル給油キャップ ゲージの〝上限〟まで補給してください。

推奨オイル：TF300またはデキシロン 2 (GM 社製)





オーガ ミッション オイルの点検

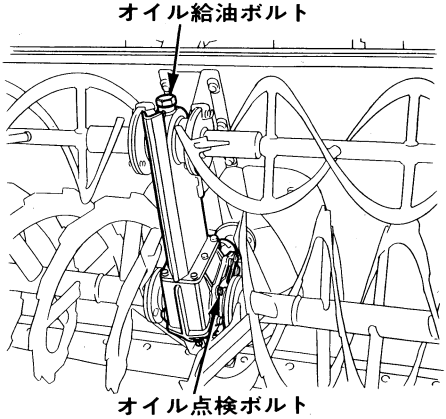
《点検時期》

年一回除雪時期初めの点検

《点検のしかた》

除雪部がいちばん下の位置になっていること、また、傾いていないことを確認してください。

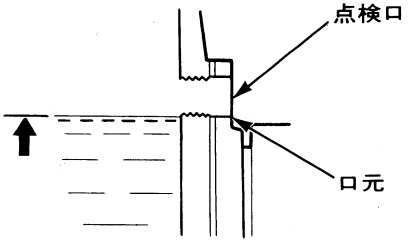
オイル点検ボルトを外し、点検口の口元までオイルがあるか点検してください。



補　給

油面が低いときは、オイル給油ボルトを外しオイル点検ボルトの口元までオイルを入れてください。オイル給油ボルト、オイル点検ボルトを確実に締付けてください。

推奨オイル：ギヤ オイル SAE #90



クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

年１回除雪時期初めの点検

《点検のしかた》

クローラ テンション スプリングの寸法が80mmになっているか点検します。

《調整のしかた》

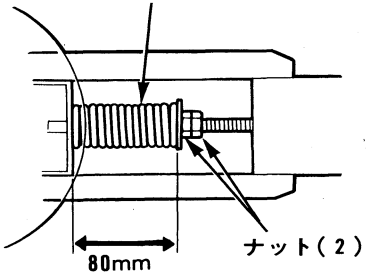
1.テンション ボルトのナット２コをゆるめて規定寸法になるように調整してください。

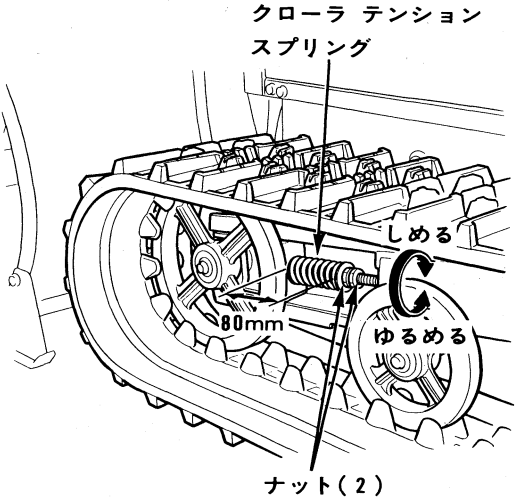
2.調整後２コのナットを確実に締付けてください。

3.左右同じ方法で点検、調整してください。

取扱いのポイント

クローラに凍結した雪が付着しているときは、正しい張り調整ができません。必ず凍結を取除いてから調整してください。



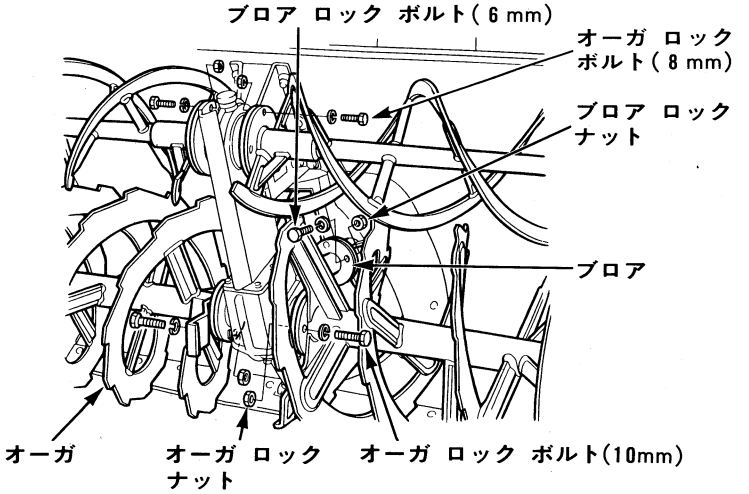


除雪部の点検

オーガ、オーガ ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検します。
オーガ、ブロア ロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。
もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロック ボルトと交換してください。

ボルトの交換方法

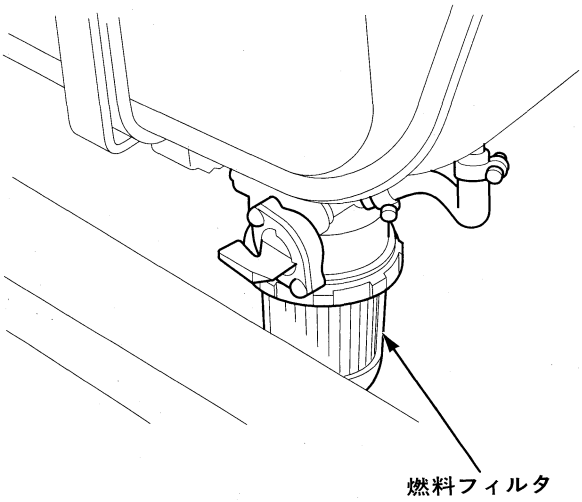
1.本機を平坦な場所に水平に止め、駐車ブレーキ レバーを〝**駐車**〟の位置にしてください。
2.除雪クラッチ レバーを〝**切**〟の位置にしてください。
3.走行クラッチ レバーを〝**切**〟の位置にしてください。
4.オーガ調節レバーでオーガをいちばん下まで下げてください。
5.エンジン スイッチを〝**停止**〟の位置にしエンジン スイッチ キーを外す。各回転部が停止していることを確認してください。
6.オーガ、ブロアの凍結または異物(石、棒、針金等)を取除きます。
7.除雪部を点検してください。
8.折れたボルトを取除き、新しいボルトと交換し、確実に締付けてください。



燃料フィルタの点検

右側サイド カバーを外します。(26頁参照)

燃料フィルタに汚れや沈澱物がないかを確認してください。異常がある場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。



ヒューズについて

ヒューズが切れたらその原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

取扱いのポイント

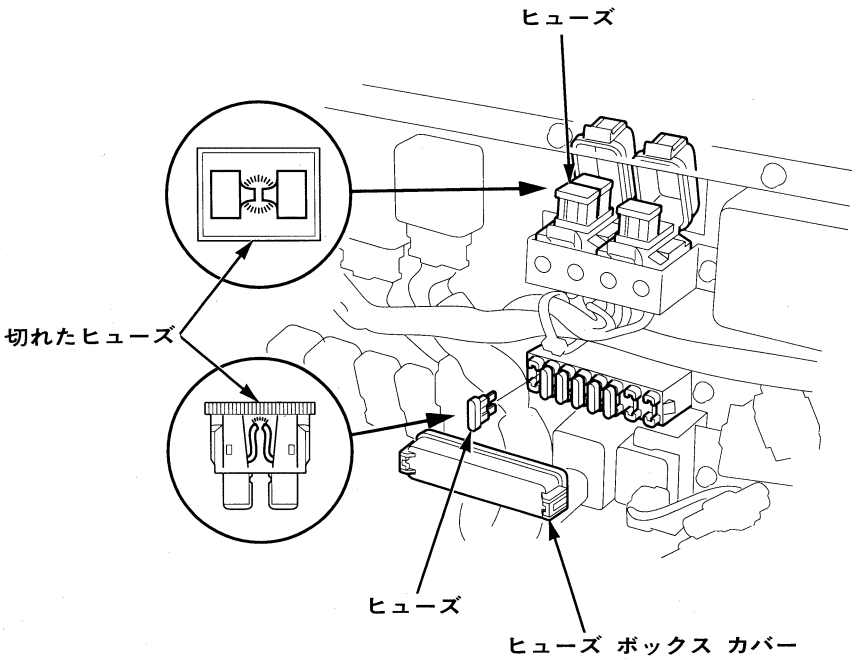
指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となります。絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

左側サイド カバーを外します。(26頁参照)

ヒューズ ボックス カバーを外し、切れたヒューズを新品のヒューズと交換してください。

40A、70A、80A ヒューズの交換は、お買いあげ販売店で修理を受けてください。

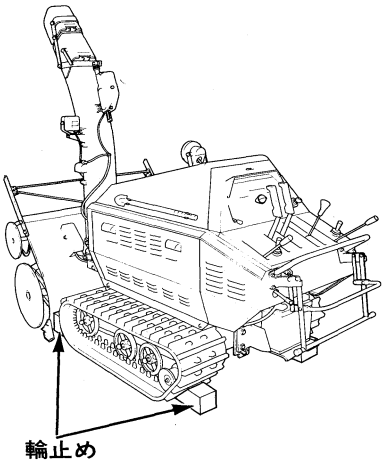


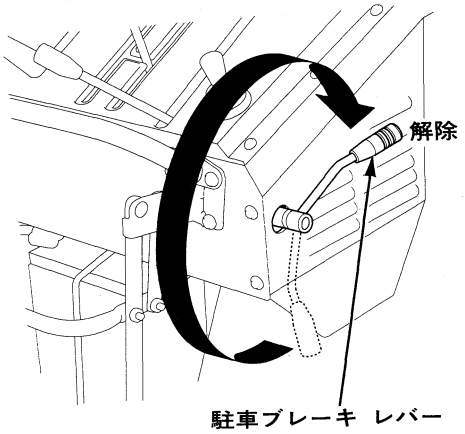
長期間使用しないときの手入れ

降雪シーズンも終わり長期保管する時は、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

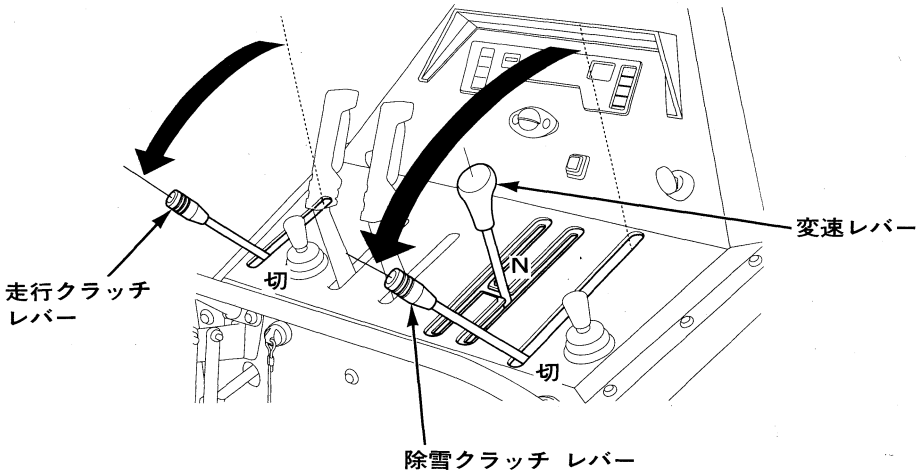
降雪シーズンも終わり長期保管する時は、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1. 保管するときは、エンジン スイッチ キーを外してください。
2. 保管時は輪止めをし、駐車ブレーキ レバーを〝解除〟の位置にしてください。



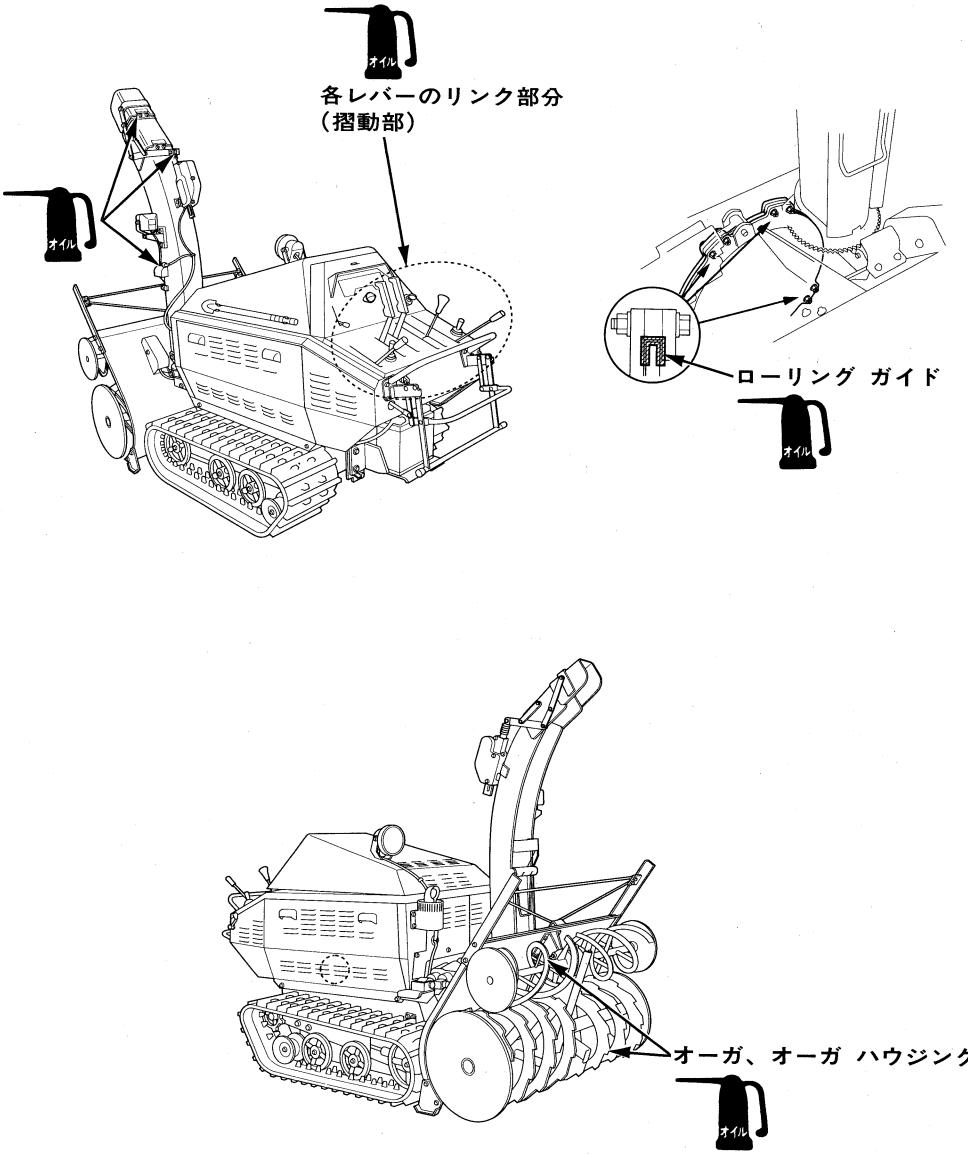


3. 変速レバーを〝N〟の位置にし、走行クラッチ レバー、除雪クラッチ レバーを〝切〟の位置にしてください。



4. 保管時の給油箇所

水気、汚れを拭きとり、乾燥後回転部、摺動部にオイルを注油してください。



5. 保管時は、バッテリの㊀端子を外しておいてください。

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので6ヵ月に一度および除雪時期の初めと、終わりに補充電を行ってください。

充電器は市販の充電器(12V用)をご使用ください。

補充電のしかた

①左側サイド カバーを外します。(26頁参照)

②バッテリを本機より取外して補充電を行ってください。

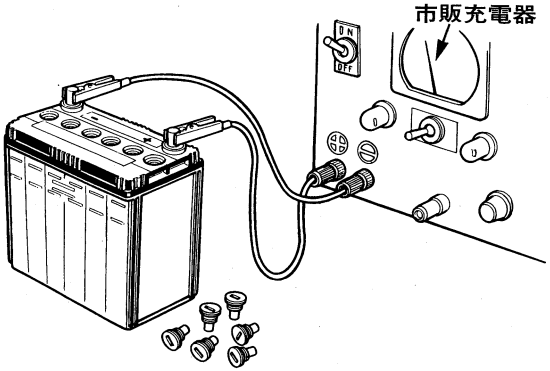
③バッテリの配線は正確に行ってください。

充電時間：4.5Aで約10時間(標準)

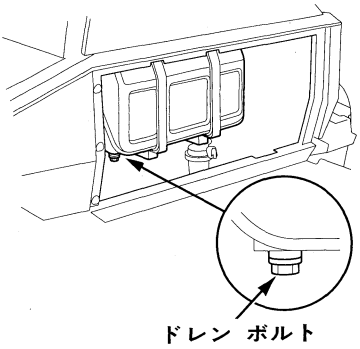
④端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは確実に締付けてください。端子に白い粉がついている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。

⚠警告

- **バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。**
- **バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。**
- **バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は㊉側から接続し、外すときは㊀から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。**



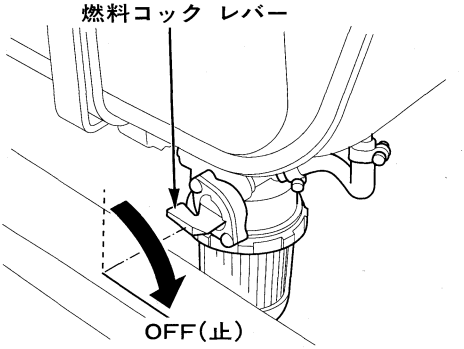
6. 右側サイド カバーを外します。(26頁参照)
燃料タンクのドレン ボルトを外し、燃料を完全に抜きます。抜いた燃料は所定の燃料タンクなどに保管してください。



⚠警告

燃料は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。
燃料を抜くときは
- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **燃料はこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

7. 燃料コック レバーを〝OFF〟(止)にします。
8. 各部のオイル漏れ、部品の損傷などがないことを確認のうえ、ボディ カバーをかけておいてください。



運　搬　す　る　と　き　は

アユミ板を使ってトラックへの積み降ろし

⚠警告

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

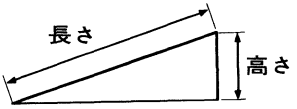
《積み降ろしをする前に》

1.積み降ろしは平担な場所で行ってください。

2.使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。

本機の総重量：約750kg

3.下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ	2.5m	3.0m	3.5m
地面からアユミ板までの高さ	50cm	60cm	70cm

4.幌または、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。

5.燃料が十分あるか確認してください。〝赤〟に近いとエンストしてしまうことがあります。

《手順》

1.アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。

2.エンジンを始動し、オーガ調節レバーで、オーガを最上位置まで上げます。

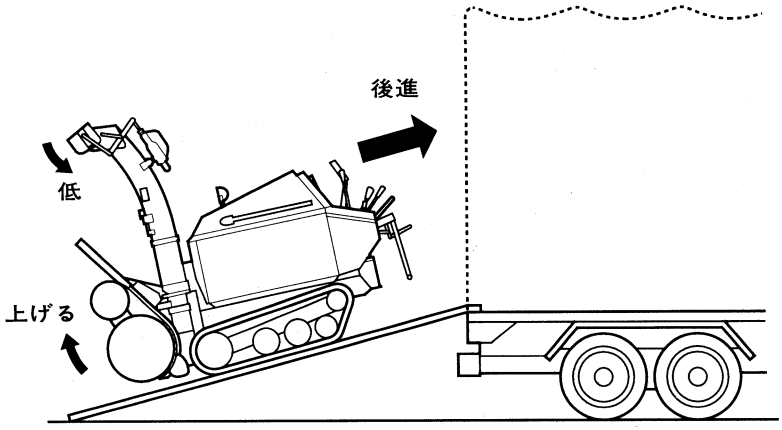
3.投雪方向調節レバーで投雪口を下までいっぱいに下げます。

4.変速レバーを低速(作業用)、後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。

5.除雪部が幌などに当たらないよう注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠注意

- **アユミ板の上を移動途中に、サイド クラッチ レバーによる操作を絶対に行わないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。**
- **アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止する場合は変速レバーを〝N〟の位置にしてください。走行クラッチ レバーを〝切〟の位置にしないでください。**



故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが、除雪機を長持ちさせる秘けつです。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

・燃料はありますか？
・燃料コック レバーは〝ON〟(出)の位置になっていますか？
・オイルは規定量ありますか？
・走行クラッチ レバー、除雪クラッチ レバーは、〝切〟の位置になっていますか？
・シュート カバーがきちんとセットされていますか？
・非常停止スイッチが外れていませんか？
・始動方法は、取扱説明書どおりですか？

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　要　諸　元

名　　称	HS2212Z	HS2512Z
型　　式	SZAP	
タ　イ　プ	J	J

エ　ン　ジ　ン

名　　称	GD1250	
形　　式	水冷4サイクル, 3気筒直列, OHCディーゼル	
最　大　出　力	16.2kW(22PS)/3,000rpm	18.4kW(25PS)/3,000rpm
排　気　量	1,235cm³	
内　径　×　行　程	82×78mm	
始　動　方　式	セルフ スタータ	
オ　イ　ル　容　量	3.5ℓ	
燃料タンク容量	25ℓ（ディーゼル軽油）	

フ　レ　ー　ム

全　　長	2,260mm
全　　幅	1,220mm
全　　高	2,040mm
乾　燥　重　量	695kg
除　雪　幅	1,200mm
除　雪　高	750mm
投　雪　距　離 （雪質および投雪方向により異なります。）	25m

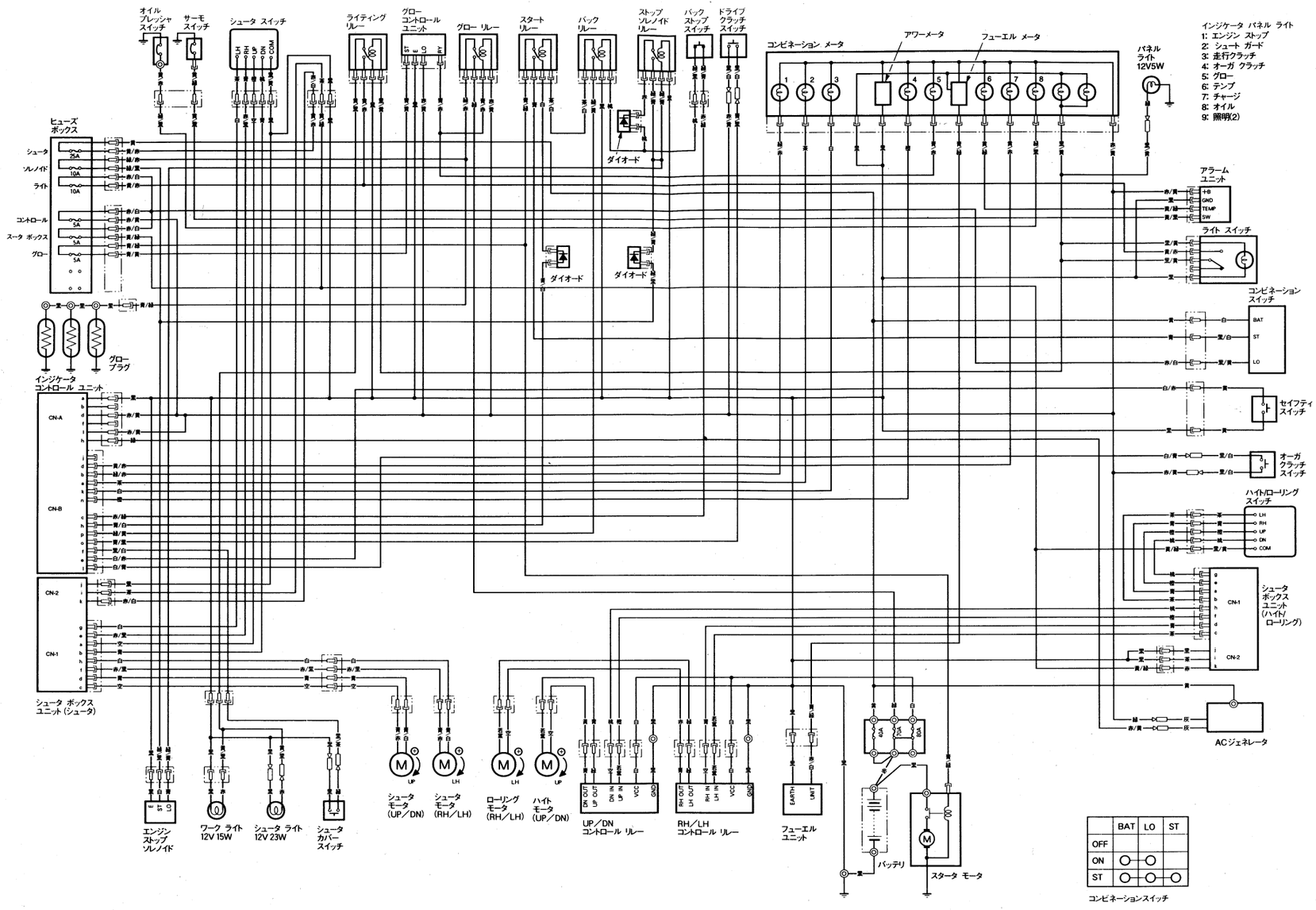
注意：諸元は予告なく変更することがあります。

メ　　モ

メ　　モ

メ　　モ

配線図


オイル プレッシャ スイッチ
サーモ スイッチ
シュータ スイッチ
ライティング リレー
グロー コントロール ユニット
グロー リレー
スタート リレー
バック リレー
ストップ ソレノイド リレー
バック ストップ スイッチ
ドライブ クラッチ スイッチ
コンビネーション メータ
アワーメータ
フューエル メータ
パネル ライト 12V5W
インジケータ パネル ライト
1: エンジン ストップ
2: シュート ガード
3: 走行クラッチ
4: オーガ クラッチ
5: グロー
6: テンプ
7: チャージ
8: オイル
9: 照明(2)
ヒューズ ボックス
シュータ 25A
ソレノイド 10A
ライト 10A
コントロール 5A
スータ ボックス 5A
グロー 5A
ダイオード
ダイオード
ダイオード
アラーム ユニット
ライト スイッチ
コンビネーション スイッチ
セイフティ スイッチ
オーガ クラッチ スイッチ
ハイト/ローリング スイッチ
グロー プラグ
インジケータ コントロール ユニット
CN-A
CN-B
CN-2
CN-1
シュータ ボックス ユニット (ハイト/ローリング)
シュータ ボックス ユニット (シュータ)
AC ジェネレータ
エンジン ストップ ソレノイド
ワーク ライト 12V 15W
シュータ ライト 12V 23W
シュータ カバー スイッチ
シュータ モータ (UP/DN)
シュータ モータ (RH/LH)
ローリング モータ (RH/LH)
ハイト モータ (UP/DN)
UP/DN コントロール リレー
RH/LH コントロール リレー
フューエル ユニット
バッテリ
スタータ モータ
BAT
LO
ST
OFF
ON
ST
コンビネーションスイッチ

天3mm

HONDA

The Power of Dreams

30762612
00X30-762-6121

Ⓢ Ⓝ 200.2001.08
©2001 本田技研工業株式会社